

コマツ 2017年度 決算説明会

2018年4月26日(木)

コマツ出席者

代表取締役社長(兼)CEO	大橋 徹二
執行役員CFO	堀越 健
執行役員経営管理部長	今吉 琢也

I. 2017年度 決算の概要 <P4-P12>

P4-5	: 2017年度の概況・セグメント売上高と利益
P6-7	: <建設機械・車両> 2017年度の状況
P8	: <リテールファイナンス> 2017年度の状況
P9	: <産機事業他> 2017年度の状況
P10	: 連結貸借対照表
P11-12	: 中期経営計画の進捗状況

II. 2018年度の業績見通し <P14-P31>

P14-15	: 2018年度の見通し(概況・セグメント売上高・利益)
P16-19	: <建設機械・車両> 売上高とセグメント利益の見通し・KMCの業績概況
P20	: <リテールファイナンス> 資産と収益の見通し
P21	: <産機事業他> 売上高とセグメント利益の見通し
P22-27	: <建設・鉱山機械> 主要7建機需要推移と見通し(全体及び地域別)
P28-29	: <建設・鉱山機械> 鉱山機械の需要・売上高の見通し
P30	: <建設・鉱山機械> 部品の売上高の見通し
P31	: 設備投資・減価償却費・研究開発費・固定費の見通し

参考資料 <P33-P43>

P33-37	: 四半期毎の状況
P38-40	: BBレシオ〔受注/売上指数(6ヶ月)〕
P41-43	: 2017年度第4四半期(1月-3月)の状況

I . 2017年度の決算概要

- ・ 連結売上高は前年比+38.7%増収の2兆5,011億円。
- ・ 営業利益は前年比+56.0%増益の2,715億円。売上高営業利益率は同+1.2ポイント増の10.9%。
- ・ 純利益は前年比+73.2%増益の1,964億円。

金額単位：億円	2016年度	2017年度(10月公表値)		2017年度			前年比(C-A)		
	(A) ¥108.6/USD ¥119.3/EUR ¥16.2/RMB	(B) ¥108.0/USD ¥124.4/EUR ¥16.0/RMB	従来コマツ *1	KMC	(C) ¥111.2/USD ¥129.6/EUR ¥16.8/RMB	従来コマツ *1	KMC	増減	増減率
連結売上高	18,029	23,280	20,370	2,910	25,011	21,832	3,178	+6,981	+38.7%
セグメント利益(▲損失)	1,765	2,360	2,560	*2 ▲200	3,029	3,154	*2 ▲124	+1,263	+71.6%
その他の営業収益(▲費用)	▲24	▲200	▲200	-	▲313	▲313	▲0	▲289	-
営業利益(▲損失)	1,740	2,160	2,360	*2 ▲200	2,715	2,840	*2 ▲124	+974	+56.0%
売上高営業利益率(▲損失率)	9.7%	9.3%	11.6%	▲6.9%	10.9%	13.0%	▲3.9%	+1.2*ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲76	210			202			+278	-
税引前純利益	1,664	2,370			2,918			+1,253	+75.3%
純利益*3	1,133	1,590			1,964			+830	+73.2%
ROE	7.3%	10.1%			12.1%			+4.8*ポイント	
ネットD/Eレシオ	0.18	-			0.40			+0.22*ポイント	
1株当たり配当金(円)	58円	72円			84円			+26円	
連結配当性向	48.2%	42.7%			40.3%				

*1 KMCの影響を除いたコマツの従来ベースの業績を示している。 *2 KMCのセグメント損失および営業損失には右記の一時費用の影響が含まれている。 *3 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」	※ PPAはPurchase Price Allocation (「ハーチェス・プライス・アロケーション」)の略。 資産・負債を公正価値評価/配分する手続き	17年度(10月公表値)	17年度
	PPAによる償却費 ※	▲400億円	▲402億円
	統合費用ほか	▲60億円	▲75億円
合計		▲460億円	▲478億円

□為替レートは、1ドル:111.2円、1ユーロ:129.6円、1元:16.8円です。前年比で、円はドル、ユーロ、元に対して円安となりました。また、その他の通貨に対しても、同様に円安となりました。

□2017年度の連結売上高は、前年比+38.7%増収の2兆5,011億円、営業利益は+56.0%増益の2,715億円となりました。営業利益率は+1.2ポイント増の10.9%です。

□売上高は、円安と物量増、およびKMCの新規連結の影響で増収となりました。

□純利益は前年比+73.2%増益の1,964億円です。

□なお、昨年10月に公表した予想値との比較においても、売上高・営業利益・純利益ともに上回りました。

- ・建設機械・車両部門の売上高は前年比+44.7%増収の2兆2,809億円。セグメント利益は前年比+70.7%増益の2,759億円。セグメント利益率は+1.8ポイント改善し 12.1%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は前年比+22.8%増収の603億円。セグメント利益は前年比+191.1%増益の129億円。
- ・産業機械他部門の売上高は前年比▲2.9%減収の1,854億円。セグメント利益は前年比+16.0%増益の144億円。

□ : 利益(▲損失)率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2016年度		2017年度 (10月公表値)		2017年度			前年比(C-A)	
	(A)	(B)	従来コマツ	KMC	(C)	従来コマツ	KMC	増減	増減率
売上高	18,029	23,280	20,370	2,910	25,011	21,832	3,178	+6,981	+38.7%
建設機械・車両	15,765 (15,663)	21,060 (20,920)	18,150 (18,010)	2,910 (2,910)	22,809 (22,673)	19,631 (19,494)	3,178 (3,178)	+7,043 (+7,009)	+44.7% (+44.8%)
リテールファイナンス	490 (467)	575 (490)	575 (490)	-	603 (496)	603 (496)	-	+112 (+29)	+22.8% (+6.3%)
産業機械他	1,910 (1,899)	1,880 (1,870)	1,880 (1,870)	-	1,854 (1,841)	1,854 (1,841)	-	▲56 (▲58)	▲2.9% (▲3.1%)
消去	▲137	▲235	▲235	-	▲255	▲255	-	▲118	-
セグメント利益 (▲損失)	9.8% 1,765	10.1% 2,360	12.6% 2,560	▲6.9% ▲200	12.1% 3,029	14.4% 3,154	▲3.9% ▲124	+1,263	+71.6%
建設機械・車両	10.3% 1,616	10.2% 2,150	12.9% 2,350	▲6.9% ▲200	12.1% 2,759	14.7% 2,884	▲3.9% ▲124	+1,142	+70.7%
リテールファイナンス	9.1% 44	19.1% 110	19.1% 110	-	21.5% 129	21.5% 129	-	+85	+191.1%
産業機械他	6.5% 124	6.6% 125	6.6% 125	-	7.8% 144	7.8% 144	-	+19	+16.0%
消去または全社	▲20	▲25	▲25	-	▲4	▲4	-	+16	-

各セグメントの状況：

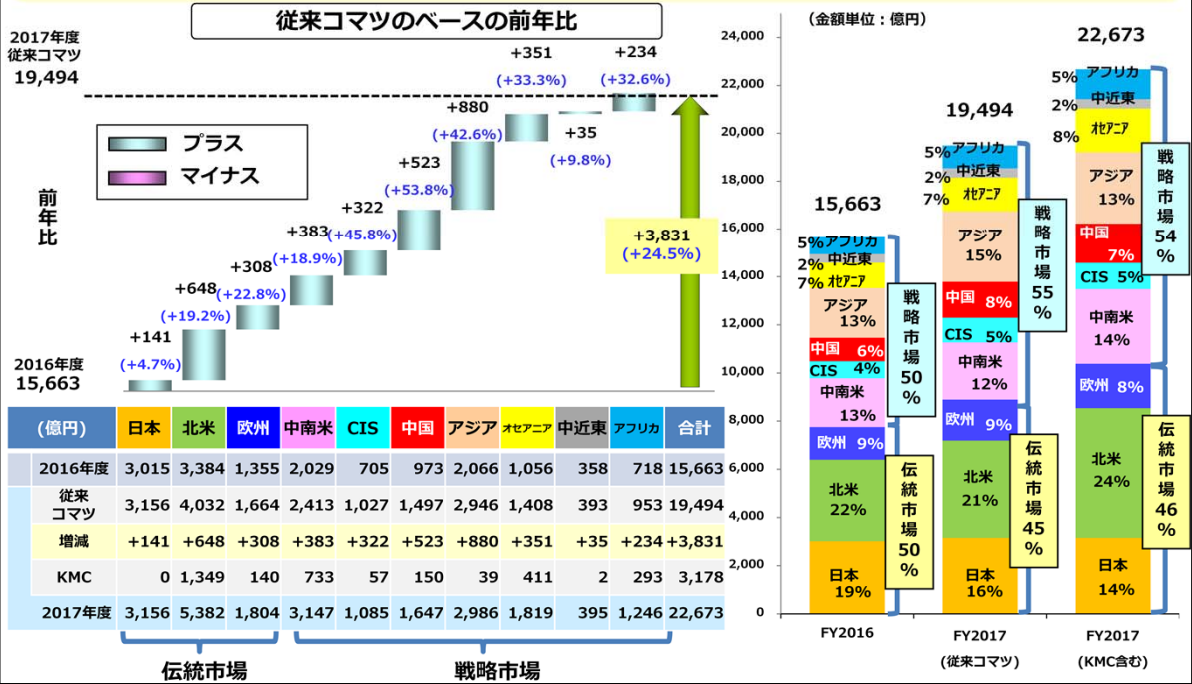
- 建設機械・車両
北米・中国・アジアなどでの売上の増加に加え、KMCの新規連結の影響により増収増益。
- リテールファイナンス
主に北米での資産の増加などに伴い、増収増益。
- 産業機械他
売上高は減収。自動車業界向けの工作機械の販売が増加したことなどに伴い増益。

□建設機械・車両の売上高は、前年比+44.7%増収の2兆2,809億円、セグメント利益は+70.7%増益の2,759億円となりました。北米・中国・アジアなどでの売上の増加に加え、KMCの新規連結の影響により増収となりました。セグメント利益は、KMCの一時費用のマイナス影響でKMCは営業損失ですが、従来コマツの方で利益が拡大した結果、全体として増益となりました。

□リテールファイナンスの売上高は、前年比+22.8%増収の603億円、セグメント利益は+191.1%増益の129億円となりました。主に北米で資産が増加したことなどに伴い、増収となりました。セグメント利益は主として、2016年度に中国で計上した引当金の影響が無くなったことにより増益となっています。

□産業機械他の売上高は、前年比▲2.9%減収の1,854億円、セグメント利益は+16.0%増益の144億円となりました。ワイヤーソーの販売減少があったものの、自動車業界向けの工作機械の販売が増加し、増益となりました。

- ・外部顧客向け売上高は前年比+44.8%増収の2兆2,673億円。そのうち、KMCを除く従来コマツの売上高は前年比+24.5%増収の1兆9,494億円。
- ・従来コマツの売上高は、すべての地域で増加。特に、北米・中国・アジアでの売上高が増加。
- ・戦略市場の比率は55%に上昇。(KMCを含む全体での戦略市場比率は54%)

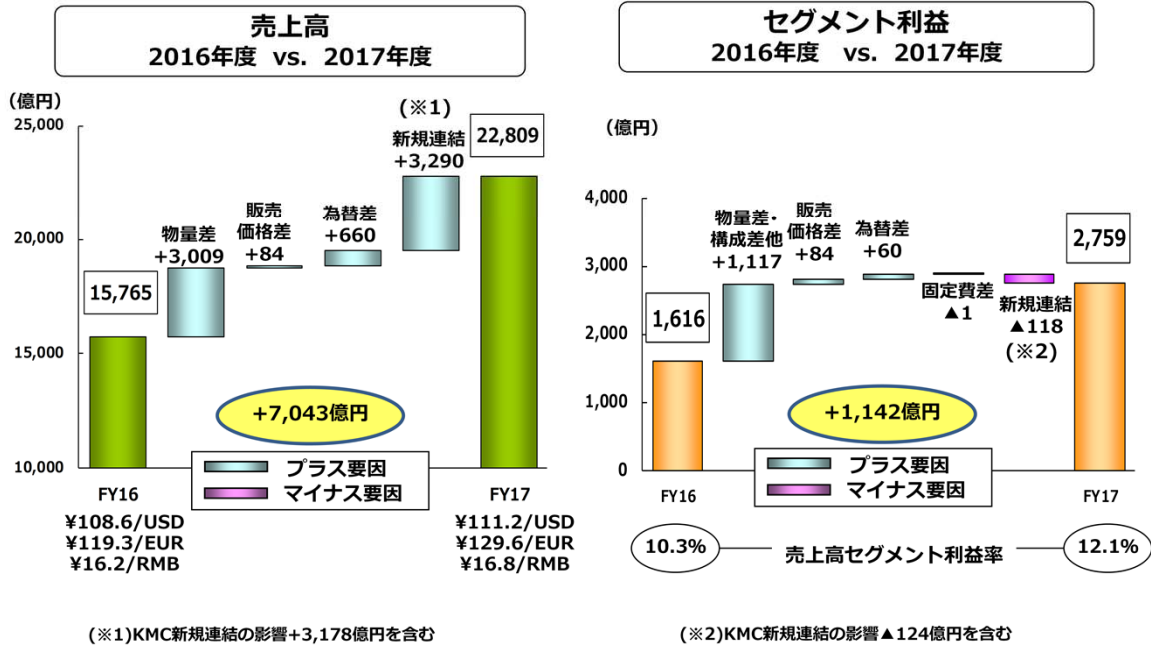


□建設機械・車両の売上高は、前年比+44.8%増収の2兆2,673億円。そのうち、KMCを除く従来コマツの売上高は前年比+24.5%増収の1兆9,494億円となりました。

□従来コマツの売上高は、すべての地域で増加。特に、北米・中国・アジアでの売上高が増加しました。

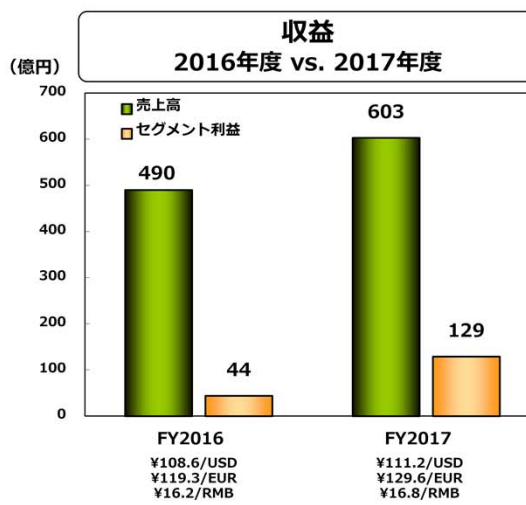
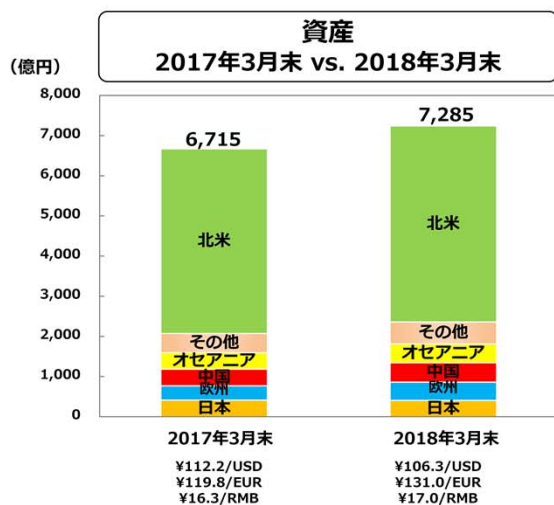
□従来コマツの売上高に占める戦略市場比率、およびKMCを含む全体の売上高に占める戦略市場比率はそれぞれ55%、54%となりました。

- ・売上高は物量の増加及び為替のプラス影響に加え、KMCの新規連結の影響により、前年比+7,043億円の増収。
- ・セグメント利益はKMCの一時費用のマイナス影響があるものの、全体としては+1,142億円の増益。
- ・売上高セグメント利益率は前年比+1.8ポイント増の12.1%。



- 売上高は物量の増加、為替のプラス影響に加え、KMCの新規連結の影響により、前年比+7,043億円の増収となりました。
- セグメント利益はKMCの一時費用のマイナス影響があるものの全体としては+1,142億円の増益となり、売上高セグメント利益率は前年比+1.8ポイント改善し、12.1%となりました。

- ・資産は主に北米等で販売が増加したことにより増加。
- ・収益は主として、前年度に中国で計上した引当金の影響が無くなったことにより増益。



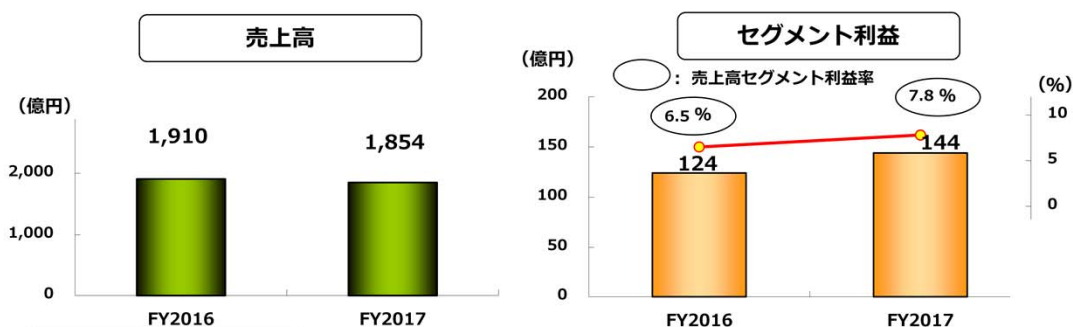
	2017/3E	2018/3E	2017/3E比
借入金	5,060	5,460	+400
ネットベースの借入金	5,012	5,426	+414
ネットD/Eレシオ	3.65	3.50	▲0.15ポイント

	FY2016	FY2017	前年比
ROA	0.7%	1.9%	+1.2%

□リテールファイナンスの資産は、主に北米等で販売が増えたことにより増加しました。

□収益については、中国で計上した引当金の影響が無くなったことにより増益となりました。

- ・売上高は前年比▲2.9%減収の1,854億円。
- ・自動車業界向けの工作機械の販売が増加したことなどに伴い増益。売上高セグメント利益率は7.8%。



金額単位：億円	FY2016	FY2017	前年比	
			増減	増減率
コマツ産機等(プレス事業合計)	566	514	▲51	▲9.1%
コマツNTC [うち、ワイヤーソー]	552 [107]	629 [86]	+77 [▲19]	+14.0% [▲18.6%]
ギガフォトン	320	371	+51	+15.9%
その他	470	337	▲132	▲28.2%
合計	1,910	1,854	▲56	▲2.9%

□自動車業界向け工作機械の販売増加があった一方、鍛圧機械やワイヤーソーおよび防衛省向け製品の販売減少により、産業機械他部門の売上高は、前年比▲2.9%減収の1,854億円、セグメント利益は前年比+20億円増益の144億円、セグメント利益率は前年比で+1.3ポイント増の7.8%となりました。

- ・総資産はKMCの新規連結の影響、および棚卸資産が増加したことに伴い、前年度末比で+7,160億円の増加。
- ・借入金・社債については、KMC買収等により、前年度末比で+4,018億円増加の8,105億円。
- ・株主資本比率は前年度末比▲10.0ポイント減の49.4%。

(金額単位：億円) ○：ネットD/Eレシオ	2017年3月末 ¥112.2/USD ¥119.8/EUR ¥16.3/RMB	2018年3月末 ¥106.3/USD ¥131.0/EUR ¥17.0/RMB	増減	2018年3月末 KMC 新規連結の影響
現金・預金（含む定期預金） [a]	1,221	1,468	+246	166
受取手形・売掛金（含む長期売上債権）	9,332	11,550	+2,218	776
棚卸資産	5,338	7,302	+1,963	1,146
有形固定資産	6,790	7,405	+615	779
その他資産	3,881	5,997	+2,116	2,513
資産合計	26,564	33,725	+7,160	5,382
支払手形・買掛金	2,401	3,035	+634	310
借入金・社債 [b]	4,087	8,105	+4,018	1,015
その他負債	3,591	5,147	+1,556	1,112
負債合計	10,079	16,289	+6,209	2,437
(株主資本比率)	(59.4%)	(49.4%)	(▲10.0ポイント)	
株主資本	15,766	16,645	+878	
非支配持分	718	790	+72	
負債及び純資産合計	26,564	33,725	+7,160	
ネットD/Eレシオの借入金・社債 [b-a]	0.18 2,865	0.40 6,637	+3,772	
ネットD/Eレシオ(リールファイナンス会社を除いた場合)	▲0.15	0.08		

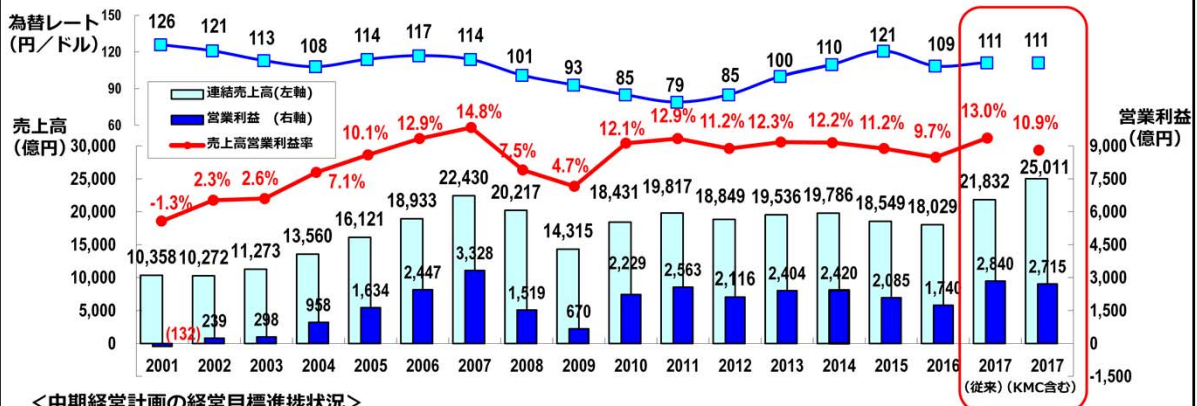
□総資産は3兆3,725億円となり、前年度末比で+7,160億円増加しました。KMCの新規連結の影響、および受取手形・売掛金、棚卸資産が増加したことに伴うものです。KMCの新規連結と為替の影響を除いた従来コマツの実質差は+2,208億円の増加です。

□棚卸資産については、前年度末比で+1,963億円増加しました。KMCの新規連結と為替の影響を除いた従来コマツの実質差は+928億円の増加です。これは需要増に対応するための在庫積み増しによるものです。

□借入金・社債は、KMC買収等により、前年度末比で+4,018億円増加の8,105億円となりました。KMCの借入金・社債の残高は1,015億円です。

□株主資本比率は前年度末比▲10.0ポイント減の49.4%となりました。

・中期経営計画の経営目標に対し、2年目の実績としては、順調に推移。



<中期経営計画の経営目標進捗状況>

	経営目標	年度	FY2016	FY2017
		指標	実績	実績
成長性	・ 業界水準を超える成長率を目指す。	売上高成長率 [対2015年度]	▲2.8%	38.7% [34.8%]
収益性	・ 業界トップレベルの営業利益率を目指す。	営業利益率	9.7%	10.9%
効率性	・ ROEは10%レベルを目指す。	ROE	7.3%	12.1%
株主還元	・ 成長への投資を主体としながら、株主還元（自社株買いを含む）とのバランスをとる。 ・ 連結配当性向を40%以上とし、60%を超えない限り減配はしない。	連結配当性向	48.2%	40.3%
健全性	・ 業界トップレベルの財務体質を目指す。	剰D/Eレシオ	0.18	0.40
リテールファイナンス事業	・ ROA 2.0%以上	ROA	0.7%	1.9%
	・ ネットD/Eレシオを5倍以下	剰D/Eレシオ	3.65	3.50

- 次に、中期経営計画の経営目標について2年目の進捗状況をご説明いたします。
- 上のグラフは過去からの業績の推移を示しており、下の表では、中期経営計画の経営目標の進捗状況をまとめております。
- 2017年度の売上高成長率は対前年+38.7%、前中計最終年度の2015年度との比較では、+34.8%となります。また、営業利益率は10.9%と昨年度の9.7%から更に改善しました。
- ROEについては、昨年度の実績7.3%から12.1%と4.8ポイント改善し目標としている10%レベルを上回りました。
- リテールファイナンス事業については、ROAは若干の未達となりましたが、ネットD/Eレシオについては、3.50倍となり、引き続き5倍以下となっております。

3つの経営戦略	進捗状況	活動の例
1.イノベーションによる成長戦略	実績	<ul style="list-style-type: none"> ICT建機の機種拡大 スマートコンストラクションの現場導入（国内累計5,000超） 株式会社NTTドコモ、SAPジャパン株式会社、株式会社オプティムとの、建設生産プロセス全体をつなぐ新プラットフォーム「LANDLOG」の共同企画・運用 無人ダンプトラック運行システムの総稼働台数100台超の達成 有人ダンプトラックの無人化を可能にする後付キットの開発
	次期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> スマートコンストラクションの更なる強化・拡大 ギガフォトンにおけるEUV光源*・新商品開発 次世代KOMTRAXの開発
2.既存事業の成長戦略	実績	<ul style="list-style-type: none"> 最新の排出ガス規制に対応した商品の開発・導入 M&Aによる部品の販売増 アジアトレーニング&デモンストレーションセンタでのカリキュラム拡充 カナダにおける林業機械用アタッチメント事業の買収
	次期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> コマツマイニングとの統合推進 砕石・セメント分野の強化継続 レンタル・中古車事業やリテールファイナンス事業も含めたバリューチェーンの更なる強化・拡大
3.土台強化のための構造改革	実績	<ul style="list-style-type: none"> 着実なコスト改善活動の実施 グローバル補給部品オペレーション改革 国内の販売会社3社（コマツ建機販売株式会社、コマツレンタル株式会社、コマツリフト株式会社）の合併
	次期に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ICTによる業務改革推進（含む働き方改革） 更なるコスト改善活動の推進 グローバルな人材強化、ダイバーシティの推進

*:EUVとはExtreme Ultravioletの略であり、EUV光源は次世代の半導体製造技術のひとつです。

こちらは中期経営計画の3つの基本戦略について、主な活動実績と2018年度以降の課題をまとめております。

イノベーションによる成長戦略、既存事業の成長戦略、土台強化のための構造改革の3つの経営戦略に取り組んでおりますが、全体としてはほぼ計画どおりに進んでおります。

Ⅱ. 2018年度の業績見通し

- ・ 連結売上高は前年並の2兆5,030億円。
- ・ 営業利益は前年比+24.8%増益の3,390億円。売上高営業利益率は同+2.7ポイント増の13.5%。
- ・ 純利益は前年比+15.1%増益の2,260億円。

金額単位：億円	2017年度			2018年度(見通し)			前年比	
	¥111.2/USD ¥129.6/EUR ¥16.8/RMB	従来コマツ *1	KMC	¥100.0/USD ¥123.0/EUR ¥15.8/RMB	従来コマツ *1	KMC	増減	増減率
連結売上高	25,011	21,832	3,178	25,030	21,880	3,150	+19	+0.1%
セグメント利益(▲損失)	3,029	3,154	*2 ▲124	3,450	3,195	*2 255	+421	+13.9%
その他の営業収益(▲費用)	▲313	▲313	▲0	▲60	▲60	-	+253	-
営業利益(▲損失)	2,715	2,840	*2 ▲124	3,390	3,135	*2 255	+675	+24.8%
売上高営業利益率(▲損失率)	10.9%	13.0%	▲3.9%	13.5%	14.3%	8.1%	+2.7ポイント	-
その他の収益(▲費用)	202			▲190			▲392	-
税引前純利益	2,918			3,200			+282	+9.7%
純利益*3	1,964			2,260			+296	+15.1%
ROE	12.1%			13.4%			+1.3ポイント	
1株当たり配当金(円)	84円			96円			+12円	
連結配当性向	40.3%			40.1%			-	

※ PPAはPurchase Price Allocation
(パーチェス・プライス・アロケーション)の略。
資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

*1 KMCの影響を除いたコマツの従来ベースの業績を示している。

*2 KMCのセグメント利益(損失)および営業利益(損失)には右記の一時費用の影響が含まれている。

*3 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

	2017年度	2018年度(見通し)
PPAによる償却費 ※	▲402億円	▲80億円
統合費用ほか	▲75億円	▲25億円
合計	▲478億円	▲105億円

□為替レートの前提は、1ドル:100円、1ユーロ:123円、1元:15.8円です。

□2018年度の業績見通しについては、物量は増加するものの、為替のマイナス影響により、連結売上高が前年並みの2兆5,030億円となる見通しです。

□利益は、為替のマイナス影響があるものの、物量増やKMCの一時費用が大幅に減少する事により、営業利益は+24.8%増益の3,390億円、売上高営業利益率は+2.7ポイント増の13.5%、となる見通しです。また純利益は2,260億円となる見通しです。

□ ROEは前年比+1.3ポイント増加の13.4%になる見通しです。

- ・建設機械・車両部門の売上高は前年比▲0.5%減収の2兆2,700億円。セグメント利益は前年比+15.2%増益の3,180億円。セグメント利益率は+1.9ポイント改善し 14.0%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は前年比▲12.1%減収の530億円。セグメント利益は前年比▲7.4%減益の120億円。
- ・産業機械他部門の売上高は前年比+12.2%増収の2,080億円。セグメント利益は前年比+24.5%増益の180億円。

□ : 利益(▲損失)率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2017年度			2018年度 (見通し)			前年比	
	¥111.2/USD ¥129.6/EUR ¥16.8/RMB	従来コマツ	KMC	¥100.0/USD ¥123.0/EUR ¥15.8/RMB	従来コマツ	KMC	増減	増減率
売上高	25,011	21,832	3,178	25,030	21,880	3,150	+19	+0.1%
建設機械・車両	22,809 (22,673)	19,631 (19,494)	3,178 (3,178)	22,700 (22,490)	19,550 (19,340)	3,150 (3,150)	▲109 (▲183)	▲0.5% (▲0.8%)
リテールファイナンス	603 (496)	603 (496)	-	530 (480)	530 (480)	-	▲73 (▲16)	▲12.1% (▲3.3%)
産業機械他	1,854 (1,841)	1,854 (1,841)	-	2,080 (2,060)	2,080 (2,060)	-	+226 (+219)	+12.2% (+11.9%)
消去	▲255	▲255	-	▲280	▲280	-	▲25	-
セグメント利益 (▲損失)	12.1% 3,029	14.4% 3,154	▲3.9% ▲124	13.8% 3,450	14.6% 3,195	8.1% 255	+421	+13.9%
建設機械・車両	12.1% 2,759	14.7% 2,884	▲3.9% ▲124	14.0% 3,180	15.0% 2,925	8.1% 255	+421	+15.2%
リテールファイナンス	21.5% 129	21.5% 129	-	22.7% 120	22.7% 120	-	▲9	▲7.4%
産業機械他	7.8% 144	7.8% 144	-	8.7% 180	8.7% 180	-	+36	+24.5%
消去または全社	▲4	▲4	-	▲30	▲30	-	▲26	-

各セグメントの状況：

- 建設機械・車両
戦略市場などでの売上の増加、販売価格のアップを見込むものの、為替のマイナス影響により売上高はほぼ横ばい。
KMCの一時費用のマイナス影響が前年比で大幅に減少すること、従来コマツでの物量差益、及び販売価格アップにより増益。
- リテールファイナンス
主に北米での資産の増加があるものの、為替のマイナス影響により減収減益。
- 産業機械他
自動車業界向けの工作機械の販売増加、新型サーボプレスの市場導入などに伴い増収増益。

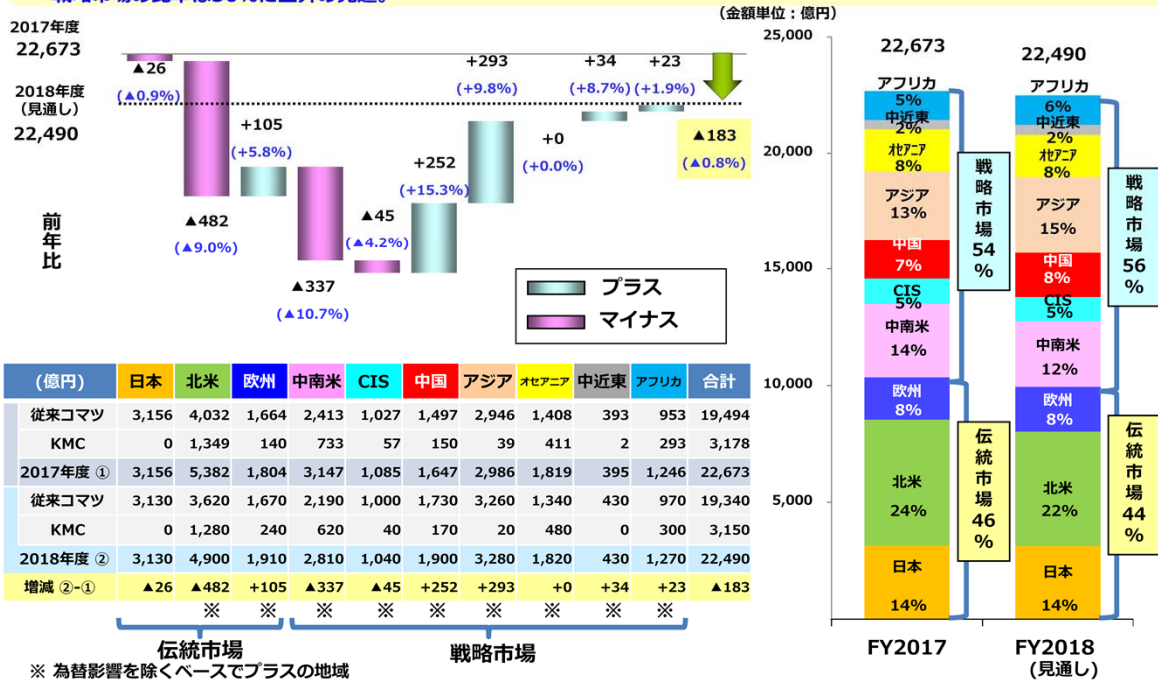
□建設機械・車両は、前年比▲0.5%減収の2兆2,700億円、セグメント利益は+15.2%増益の3,180億円となる見通しです。

□リテールファイナンスの売上高は、前年比▲12.1%減収の530億円、セグメント利益は▲7.4%減益の120億円となる見通しです。

□産業機械他の売上高は、前年比+12.2%増収の2,080億円、セグメント利益は+24.5%増益の180億円となる見通しです。

<建設機械・車両> 2018年度の地域別売上高の見通し (外部顧客向け)

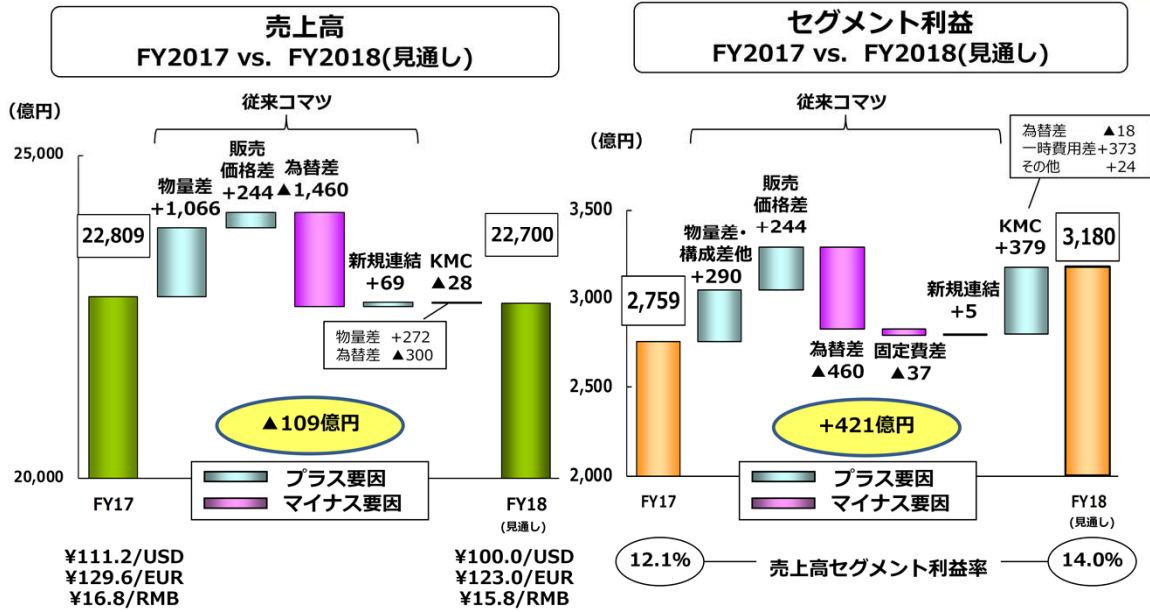
- ・ KMCを含んだ全体での外部顧客向け売上高は前年比▲0.8%減収の2兆2,490億円。うち、KMCを除く従来コマツの売上高は1兆9,340億円。
- ・ 中国やアジアなどの戦略市場を中心とした売上の増加がある一方で、為替のマイナス影響で全体としてほぼ横ばい。為替影響を除くベースでは、日本を除く全ての地域でプラスとなる見通し。
- ・ 戦略市場の比率は56%に上昇の見込。



□2018年度は中国、アジアなどの戦略市場を中心とした売上の増加、及び販売価のアップを見込むものの為替のマイナス影響により全体としてほぼ横ばいとなる見通しです。なお、為替影響を除くベースでは、日本を除く全ての地域でプラスとなる見通しです。

□戦略市場の比率は、前年度の54%から56%に拡大する見通しです。

- ・売上高は物量の増加、価格アップのプラス影響があるものの、為替のマイナス影響により、前年比▲109億円の減収。
- ・セグメント利益は為替のマイナス影響を物量増・価格アップのプラス影響によりカバーし、前年比+421億円の増益。
- ・売上高セグメント利益率は前年比+1.9ポイント増の14.0%。



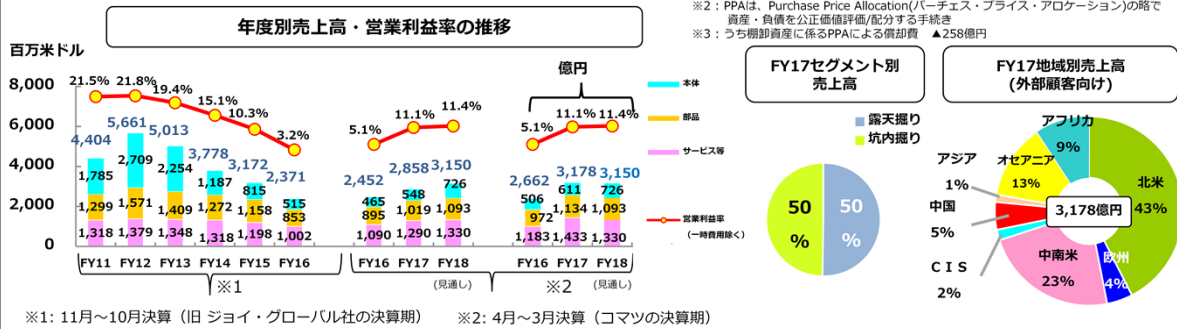
- 売上高は、中国、アジアなどの戦略市場を中心とした売上の増加、及び販売価のアップによる増収を見込む一方、為替のマイナス影響により、前年比▲109億円の減収となる見通しです。
- セグメント利益は、円高による減益の影響はあるものの、KMC一時費用のマイナス影響が前年比大幅に減ること、また従来コマツでの物量差益、及び販売価格アップによるプラス影響により、全体として増益となる見通しです。

<建設機械・車両> KMC の業績概況

- ・2017年度の売上高は、前年比+19.4%増収の3,178億円、一時費用含む営業損失は▲124億円。
- ・2018年度の売上高は、前年比▲0.9%減収の3,150億円、一時費用減少に伴い営業利益は255億円の見通し。

(金額単位：億円)	2016年度 (参考) ※1 (¥108.6/USD) (A)		2017年度 (¥111.2/USD) (B)		2018年度 見通し (¥100.0/USD) (C)		前年比(B-A) (参考)		前年比(C-B)	
	増減	増減率	増減	増減率	増減	増減率	増減	増減率	増減	増減率
売上高	2,662		3,178		3,150		+516	+19.4%	▲28	▲0.9%
本体	506		611		726		+105	+20.8%	+115	+18.8%
部品	972		1,134		1,093		+162	+16.7%	▲41	▲3.6%
サービス等	1,183		1,433		1,330		+250	+21.1%	▲103	▲7.2%
営業利益 <一時費用除く>	5.1%	134	11.1%	353	11.4%	360	+219	+163.4%	+7	+2.0%
一時費用 (マイナスで表記)	▲102		▲478		▲105		▲376	-	+373	-
PPAによる償却費 ※2	-		※3 ▲402		▲80		▲402	-	+322	-
統合費用ほか	▲102		▲75		▲25		+27	-	+50	-
営業利益 (▲損失) <一時費用含む>	1.2%	33	▲3.9%	▲124	8.1%	255	▲157	-	+379	-

※1：2016年度の数値はコマツの決算期に組替して記載している。
 ※2：PPAは、Purchase Price Allocation(パーチェス・プライス・アロケーション)の略で資産・負債を公正価値評価/配分する手続き
 ※3：うち棚卸資産に係るPPAによる償却費 ▲258億円



□2016年度の数値はコマツの決算期に組み替えて表示しています。当社の連結決算にはまだ入っていない時期の数値です。

□2017年度のKMCの売上高は、前年比+19.4%増収の3,178億円となりました。うち、本体は前年比+20.8%増の611億円、部品は前年比+16.7%増の1,134億円、サービス等は前年比+21.1%増の1,433億円という状況です。

□セグメント別の売上高比率は、露天掘り、坑内掘り、いずれも50%となりました。

□一時費用を除く営業利益は353億円です。一時費用▲478億円を含めると▲124億円の営業損失となりました。

□PPA (Purchase Price Allocation) による償却費は▲402億円であり、そのうち棚卸資産に係る金額は▲258億円です。

□2018年度のKMCの売上高は、物量は増加するものの、為替の影響により前年比▲0.9%減収の3,150億円となる見通しです。

□2018年度の一時費用を除く営業利益は微増となる見込みです。2017年度に比べ、一時費用が大幅に減少することで、一時費用を含む営業利益は255億円、営業利益率は8.1%となる見通しです。

- ・統合初年度の2017年度に、想定を上回る約25億円のシナジー効果を確定 (2017年度以降の業績寄与も含む)。
- ・本体、部品、サービス、リマン/リビルド*の新規受注獲得に加え、共同購買や資金調達の統合によるコスト削減を実現。

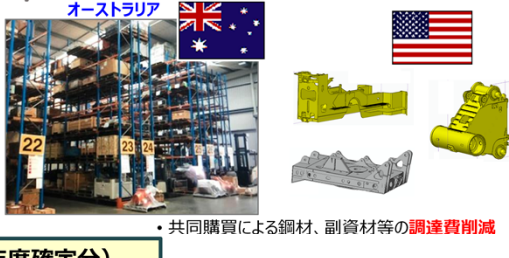
本体/部品販売



米国

- ・KMC製品への標準装備による部品**売上増加**
- ・中南米における商談では、コマツの信頼関係を軸に、KMC製ローショベルの**受注獲得**

サプライチェーン



オーストラリア

- ・共同購買による鋼材、副資材等の**調達費削減**

シナジー効果 (2017年度確定分)

約25億円 税引前利益ベース
2017年度以降の業績寄与も含む

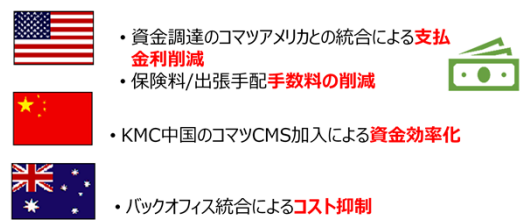
サービス、リマン/リビルド*



ベルギー

- ・両社の拠点を有効活用し、サービスおよびリマン・リビルド**売上増**
- ・*リマン/リビルド：部品やコンポーネントの再生事業

バックオフィス

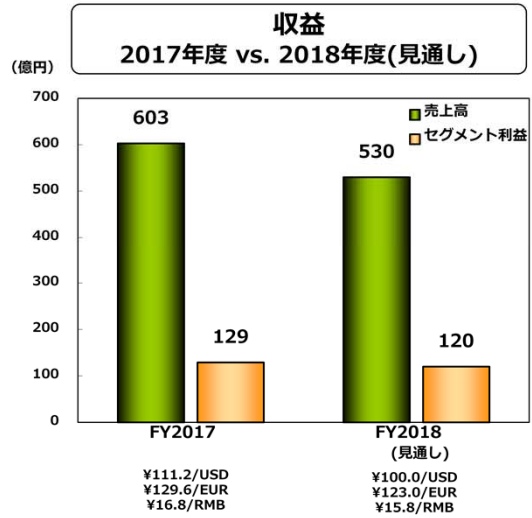
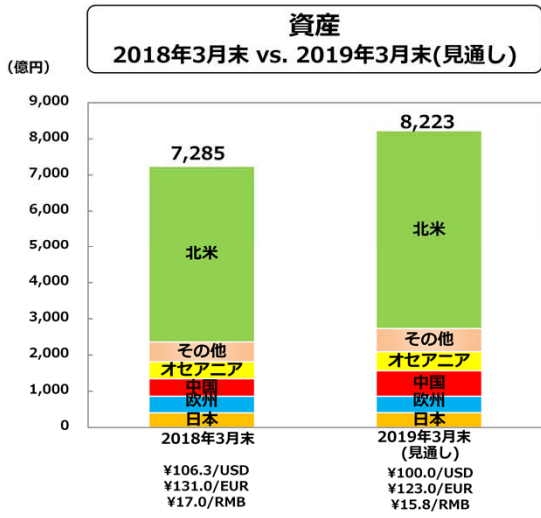


- ・資金調達のコマツアメリカとの統合による**支払金利削減**
- ・保険料/出張手配**手数料の削減**
- ・KMC中国のコマツCMS加入による**資金効率化**
- ・バックオフィス統合による**コスト抑制**

<想定シナジー (2021年度 目標) > **KMC売上高の約10%**

- KMCとの統合初年度の2017年度に、想定を上回るシナジー効果を確定しております。金額は、税引前利益のベースで約25億円ですが、ここには業績への寄与が2017年度以降のものも含んでいます。
- 市場の回復を追い風に、本体や部品の新規受注を順調に獲得しております。
- また、コマツとKMC双方の拠点をお互いに活用することでサービス、部品やコンポーネントの再生事業であるリマン/リビルドの売上も増加しています。
- 共同購買や資金調達の統合によるコスト削減も着実に進めております。
- 2018年度は更にシナジー効果の拡大が見込まれます。

- ・資産は主に北米等で販売が増加することにより増加の見通し。
- ・収益は為替のマイナス影響等により減収減益となる見通し。

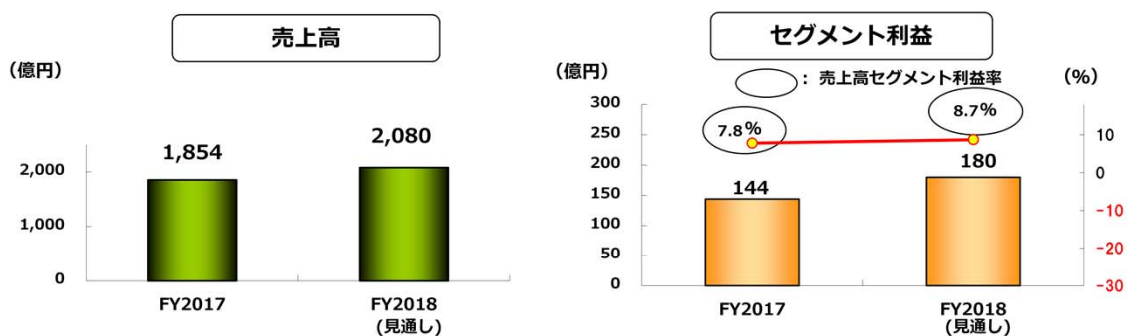


金額単位: 億円	2018/3E	2019/3E(見通し)	2018/3E比
借入金	5,460	6,575	+1,115
ネットベースの借入金	5,426	6,517	+1,090
ネットD/Eレシオ	3.50	4.70	+1.20ポイント

	FY2017	FY2018(見通し)	前年比
ROA	1.9%	1.6%	▲0.3%

□リテールファイナンスの資産は、北米、中国、オセアニア等での取組増に伴い伸張する見通しですが、収益については、主に為替の影響により減収減益となる見通しです。

・売上高は前年比+12.2%増収の2,080億円、セグメント利益は前年比+35億円増益の180億円となる見通し。

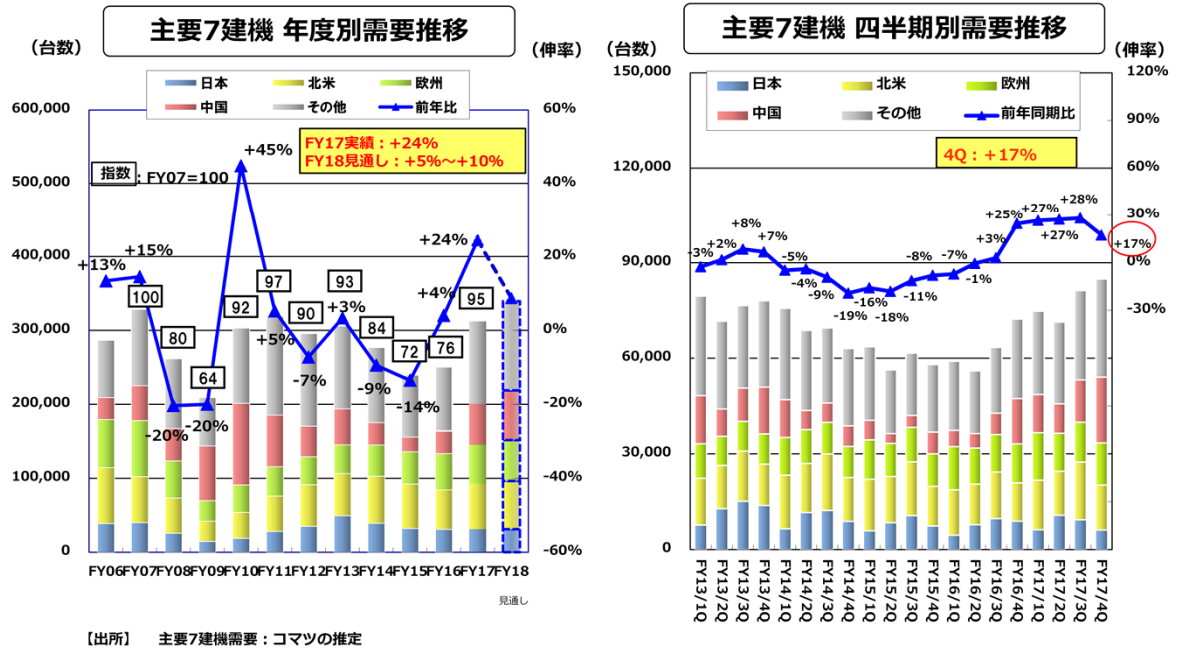


売上高の内訳	FY2017	FY2018 (見通し)	前年比	
			増減	増減率
金額単位：億円				
コマツ産機等(プレス事業合計)	514	615	+100	+19.5%
コマツNTC [うち、ワイヤーソー]	629 [86]	679 [78]	+49 [▲8]	+7.9% [▲9.8%]
ギガフoton	371	405	+33	+9.1%
その他	337	380	+42	+12.5%
合計	1,854	2,080	+225	+12.2%

□産業機械他の売上高は、自動車業界向け工作機械の販売伸張、新型サーボプレスの市場導入による拡販等により、前年比+12.2%増収の2,080億円、セグメント利益は前年比+35億円増益の180億円となる見通しです。

<建設機械・車両> 主要7建機の需要推移と見通し

- ・ 2017年度の需要は、前年比+24%増加。
- ・ 2018年度の需要は、全体としては前年比 +5%~+10% の見通し。



□ 主要7建機および鉱山機械の需要につきましては、従来コマツのベースでの推移を表しています。数字については当社推定の速報値です。22ページから28ページまでが該当します。

□ 2017年度の需要は、前年比+24%の増加となった模様です。

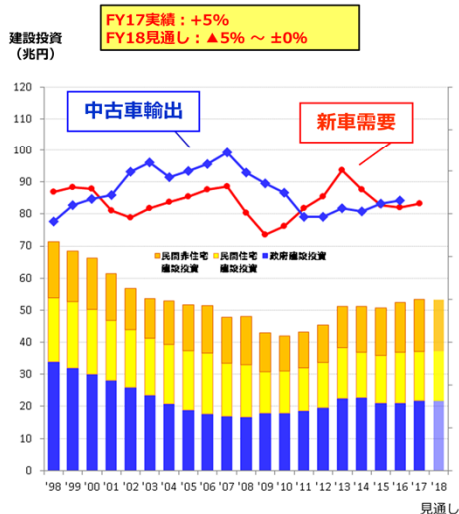
□ 中国、東南アジアなど戦略市場の需要増に加え、北米をはじめとした伝統市場の需要も堅調に推移しました。

□ 2018年度は引き続き中国やインドネシアで伸びが期待でき、全体としては+5%~+10%の需要増加と見ております。

<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：①日本

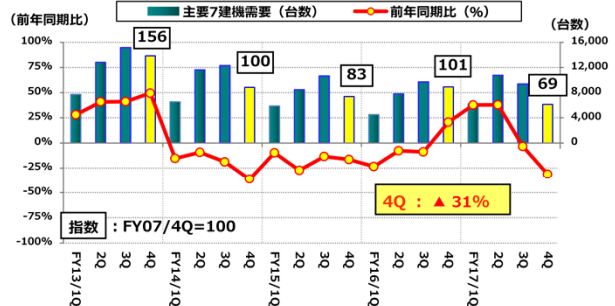
- ・ 2017年度の需要は、前年比+5%増加。下期は国内排ガス規制（2017年9月開始）前の駆け込み需要の反動減などにより新車需要が減少。
- ・ 2018年度の需要は前年比▲5%～±0%の見通し。

新車需要（主要7建機）と建設投資

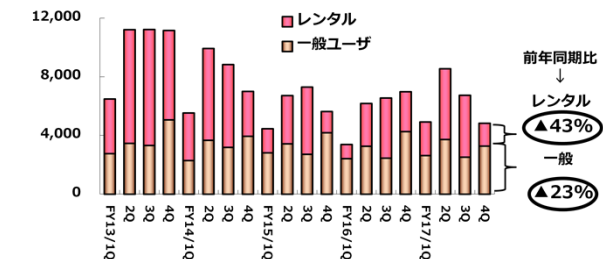


【出所】建設投資：国土交通省／建設経済研究所
 主要7建機需要：コマツの推定
 中古車輸出量：コマツの推定

主要7建機 四半期別需要推移



油圧ショベル 需要推移(レンタル/一般向け)



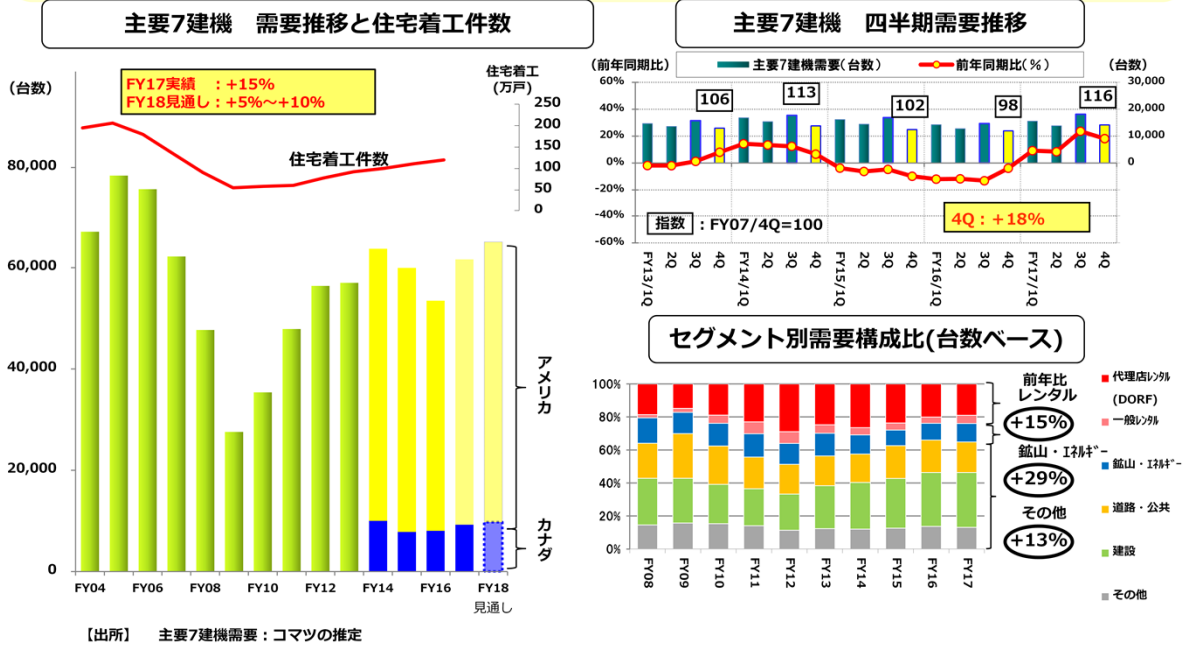
□2017年度の日本の需要台数は、前年比+5%の増加となった模様です。

□上期は国内排ガス規制前の駆け込み需要がありましたが、下期はその反動減で新車需要が減少しました。年間合計では増加となりました。

□ 2018年度の需要見込みにつきましても、引き続き2017年度下期からの反動減の影響が出るものと考えられ、前年比▲5%～±0%と見ております。

<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：②北米

- ・2017年度の需要は、前年比+15%増加。
- ・アメリカにおいて、インフラおよびエネルギー関連向けを中心に需要は引き続き堅調に推移し、低迷していたレンタル向けも増加。
- ・2018年度の需要は前年比+5%~+10%増加の見通し。



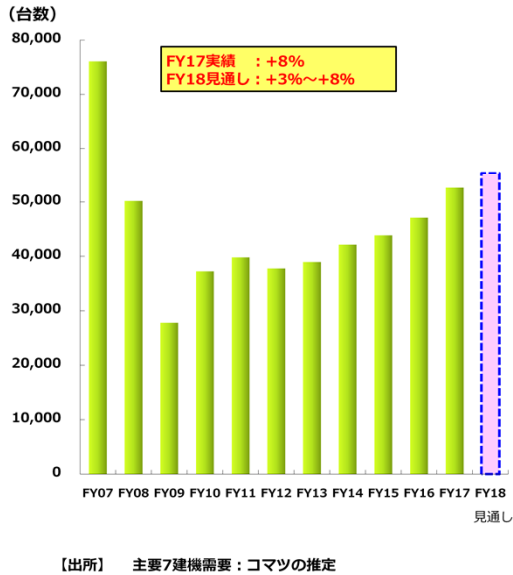
□2017年度の北米の需要は、前年比で+15%の増加となった模様です。

□特にカナダは一般ユーザ向け、レンタル向けともに回復し、また、アメリカではインフラおよびエネルギー関連向けを中心に需要は堅調に推移し、低迷していたレンタル向けも増加しました。

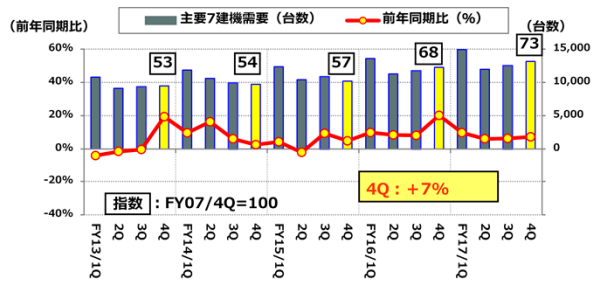
□2018年度についても、引き続き堅調に推移すると思われ、全体の需要は前年比+5%~+10%の増加になると見えています。

- ・ 2017年度の需要は、前年比+8%増加。
- ・ 引き続き主要市場であるドイツや北欧を中心に堅調に推移。
- ・ 2018年度は引き続き堅調と見ており、前年比+3%~+8%の見通し。

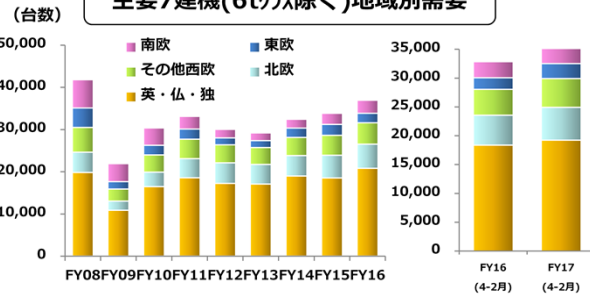
主要7建機 年度別需要推移



主要7建機 四半期需要推移



主要7建機(6tクラス除く)地域別需要

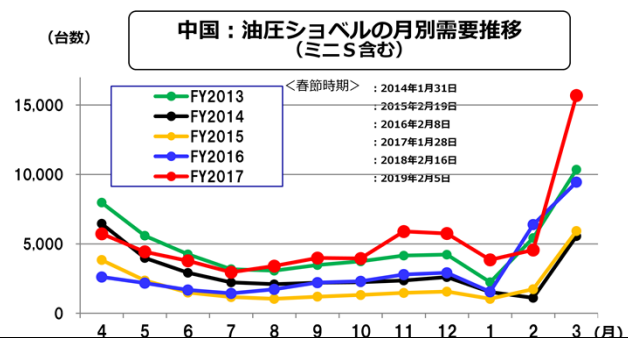
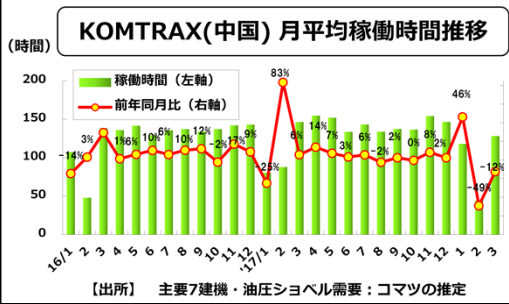
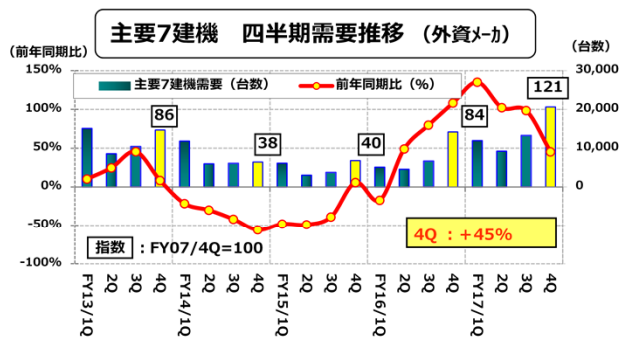
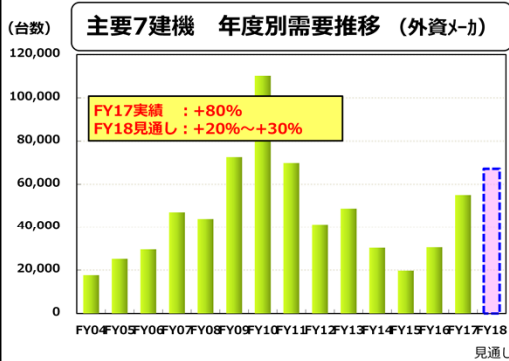


□ 2017年度の欧州の需要は、前年比+8%の増加となった模様です。

□ ドイツを中心とした主要市場および北欧についても需要は堅調でした。

□ 2018年度は、Brexitの影響などの不安要素はあるものの、全体としては前年比+3%~+8%の需要増加と見ております。

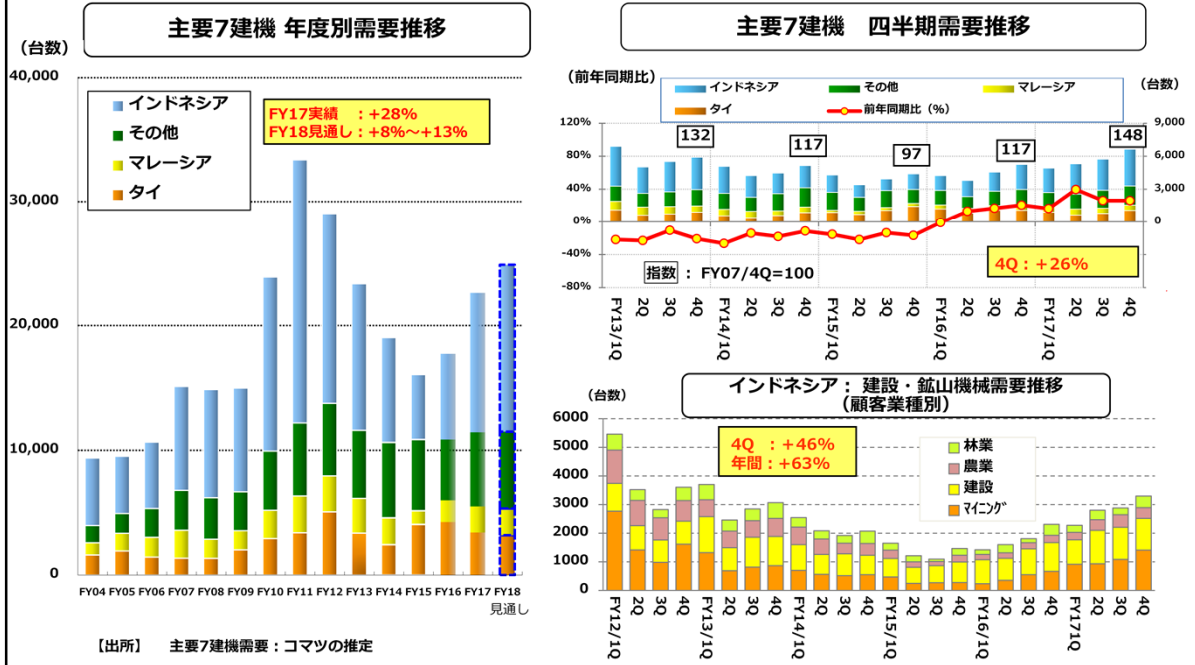
- ・2017年度の需要は、前年比+80%増加。
- ・引き続きインフラ工事が進行し、一般建機の需要が増加。
- ・2018年度は引き続き堅調と見ており、前年比+20%~+30%の見通し。



- 2017年度の中国の需要は、第4四半期で+45%と伸び率は鈍化しましたが、年間では前年比+80%の増加となった模様です。
- 全国的にインフラ工事が進行したことにより一般建機の需要が伸長しました。四半期ベースでは、2016年度第2四半期から7四半期連続で需要は対前年同期比でプラスです。
- 2018年度についても、需要の伸びは続くと見ておりますが、伸び率は鈍化し、前年比+20%~+30%の増加と見ております。

<建設機械・車両> 主要市場の需要推移と見通し：⑤東南アジア

- ・2017年度の需要は、前年比+28%増加。
- ・最大市場のインドネシアで、特にマイニングの需要が増加。
- ・2018年度は引き続き堅調と見ており、前年比+8%～+13%の見通し。



□2017年度の東南アジアの需要は、前年比+28%の増加となった模様です。

□最大市場のインドネシアで特にマイニングの需要が増加しました。

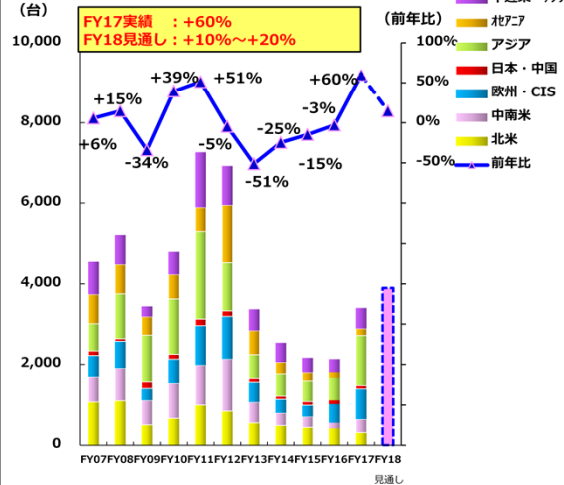
□2018年度はインドネシアが引き続き牽引し、東南アジア全体の需要は前年比+8%～+13%の増加と見ております。

<建設機械・車両> 鉱山機械の需要推移と見通し

- ・2017年度の鉱山機械の世界需要は、前年比+60%増加。
- ・引き続きインドネシア、オセアニア、アフリカなどで需要が増加。
- ・2018年の需要は、前年比+10%~+20%の見通し。

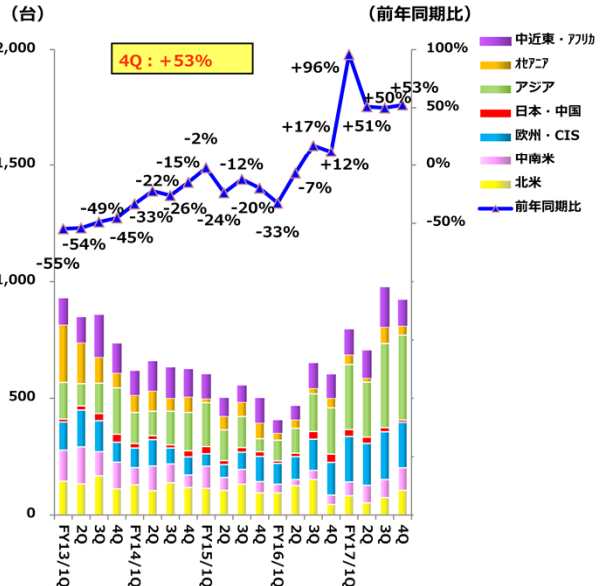
鉱山機械 年度別需要推移

・ダンプトラック：75 t (HD785) 以上 ・ブルドーザー：525HP (D375) 以上
 ・エクスカベータ：200 t (PC2000) 以上 ・ホイールローダー：810HP (WA800) 以上
 ・モーターレータ：280HP (GD825) 以上



【出所】 コマツの推定

鉱山機械 四半期別需要推移

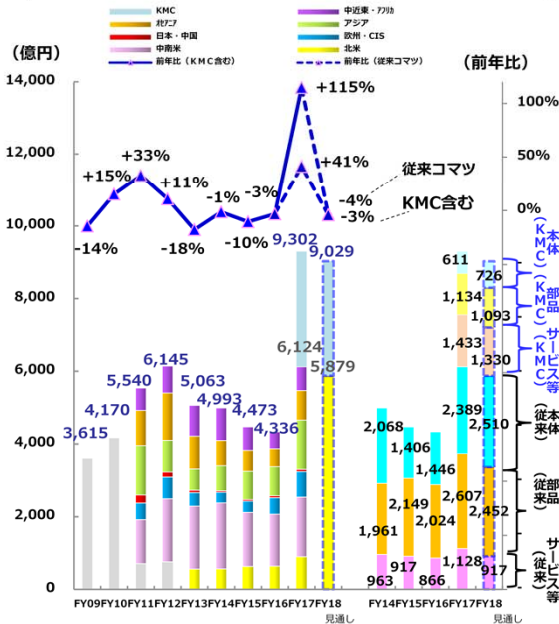


□2017年度の鉱山機械の需要は前年比+60%の増加となった模様です。

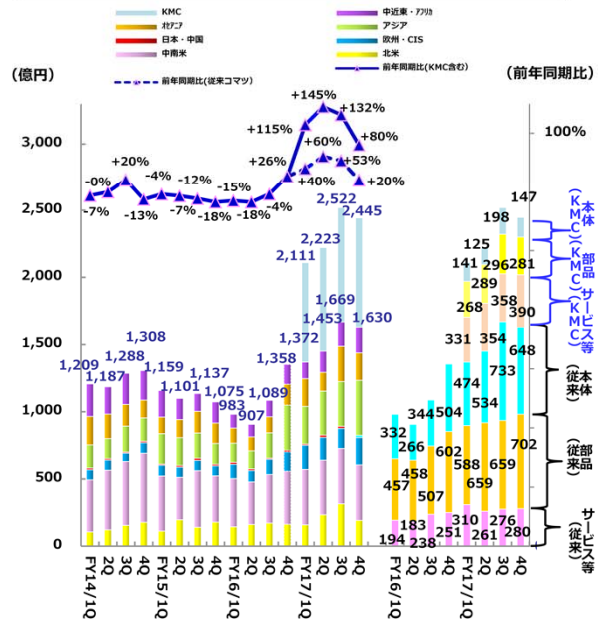
□2018年度も引き続きインドネシア、オセアニア、アフリカなどで需要の増加が見込まれ、伸び率は+10%~+20%程度になると予想しています。

- ・ 2017年度の売上高は、前年比+115%増加の9,302億円。KMCを除く従来コマツの売上高は前年比+41%増加の6,124億円。
- ・ 2018年度の売上高は、前年比▲3%減収の9,029億円。KMCを除く従来コマツの売上高は前年比▲4%減収の5,879億円。

鉱山機械 年度別売上高 (部品・サービス等含む)



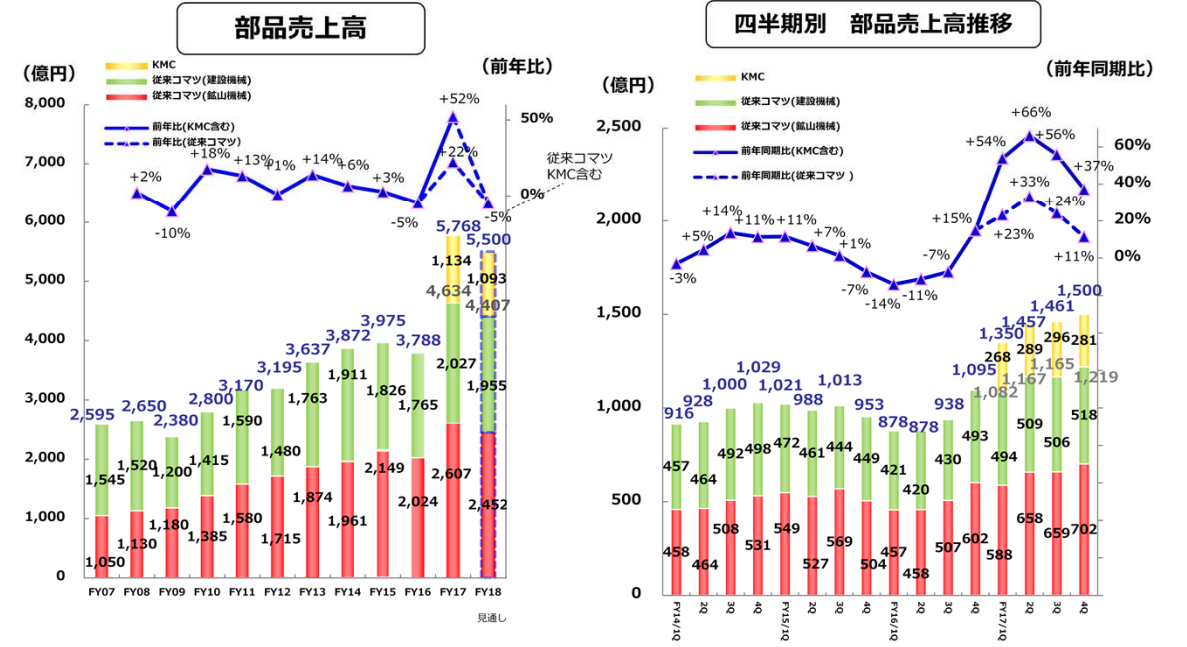
鉱山機械 四半期別売上高 (部品・サービス等含む)



□2017年度の鉱山機械の売上高は、前年比+115%増収の9,302億円、KMCを除く従来コマツの売上高は前年比+41%増加の6,124億円となり、本体・部品・サービスともに売り上げが増加しました。

□2018年度は、物量は増えるものの、為替のマイナス影響が大きく、前年比▲3%減の9,029億円となる見通しです。為替影響を除くと前年比+7%増と見ております。

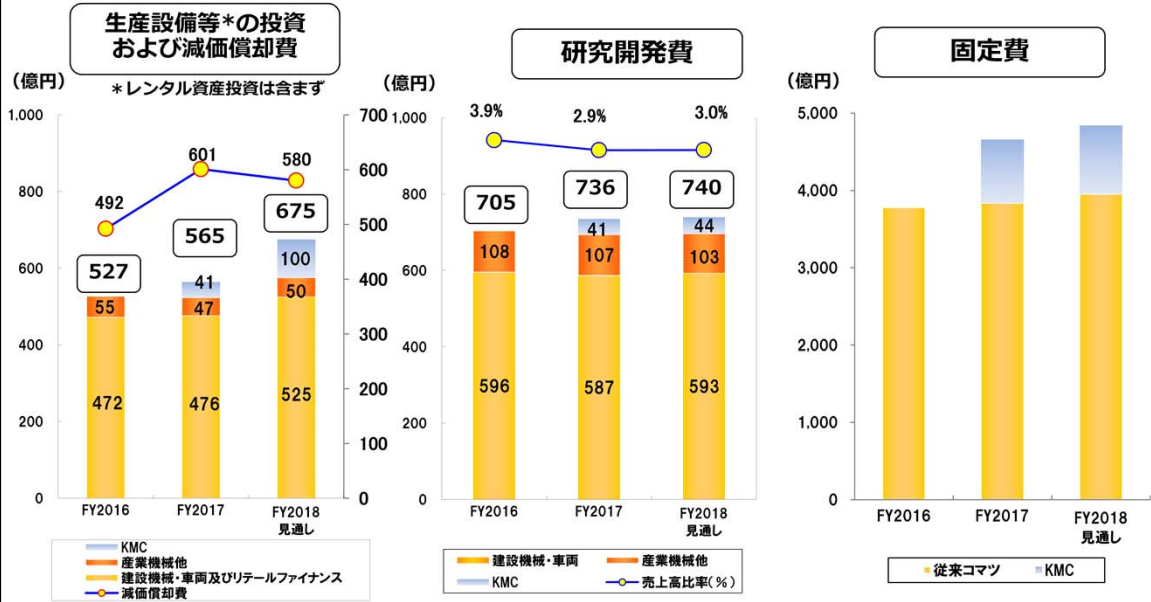
・ 2017年度の部品売上高は、前年比+52%増加の5,768億円。KMCを除く従来コマツの売上高では+22%増加の4,634億円。
 ・ 2018年度の売上高は、アフターマーケットの需要を確実に取り込むものの、為替影響で前年比▲5%減の5,500億円。



□ 2017年度の部品の売上高は、前年比+52%増加の5,768億円、KMCの新規連結影響を除くと+22%増となりました。内訳は一般建機が+15%増、鉱山機械は+29%増です。

□ 2018年度の売上高は、アフターマーケットの需要を確実に取り込み、物量は増えるものの、為替のマイナス影響で前年比▲5%減の5,500億円の見通しです。為替影響を除くと前年比+4%増と見ております。

- ・設備投資は、KMCの工場再編投資や、国内工場の労働力不足への対応等を実施。
- ・研究開発費は、キーコンポーネントや分野別・地域別商品開発の他、無人化等のイノベーションによる次世代商品開発に引き続き重点投資。
- ・固定費は、KMCなどの新規連結会社の影響およびICTによる業務改革などの先行投資により増加。



□レンタル資産投資を除く生産設備等の投資では、KMCの工場再編投資や、国内工場の労働力不足への対応等を実施する予定です。

□研究開発費は、キーコンポーネントや分野別・地域別商品開発の他、無人化等のイノベーションによる次世代商品開発に引き続き重点投資していきます。

□固定費は、KMC等の新規連結会社の影響およびICTによる業務改革等の先行投資により増加予定です。

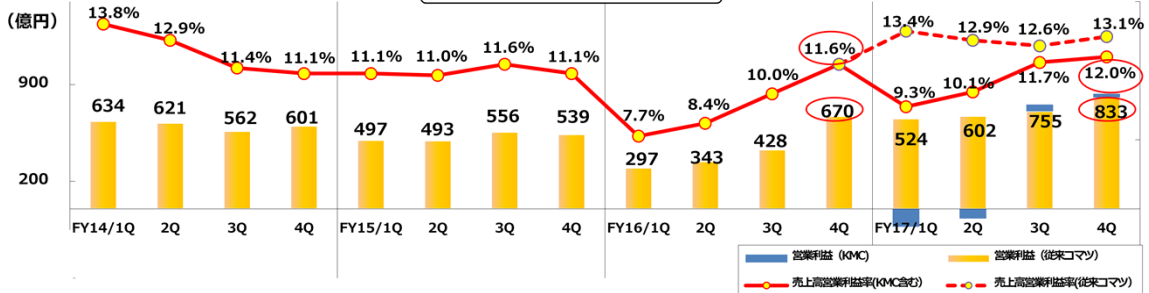
参考資料

【参考資料】
四半期毎の売上高と営業利益の推移

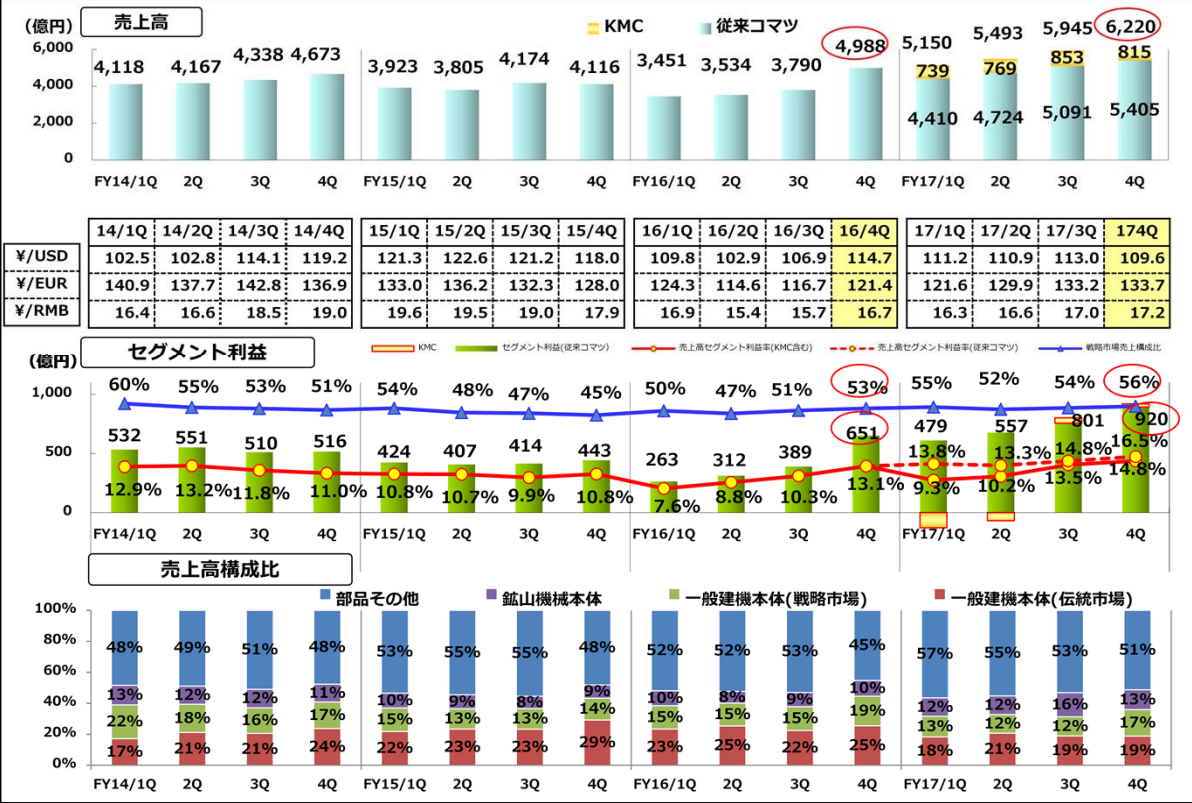
連結売上高 (FY14~)

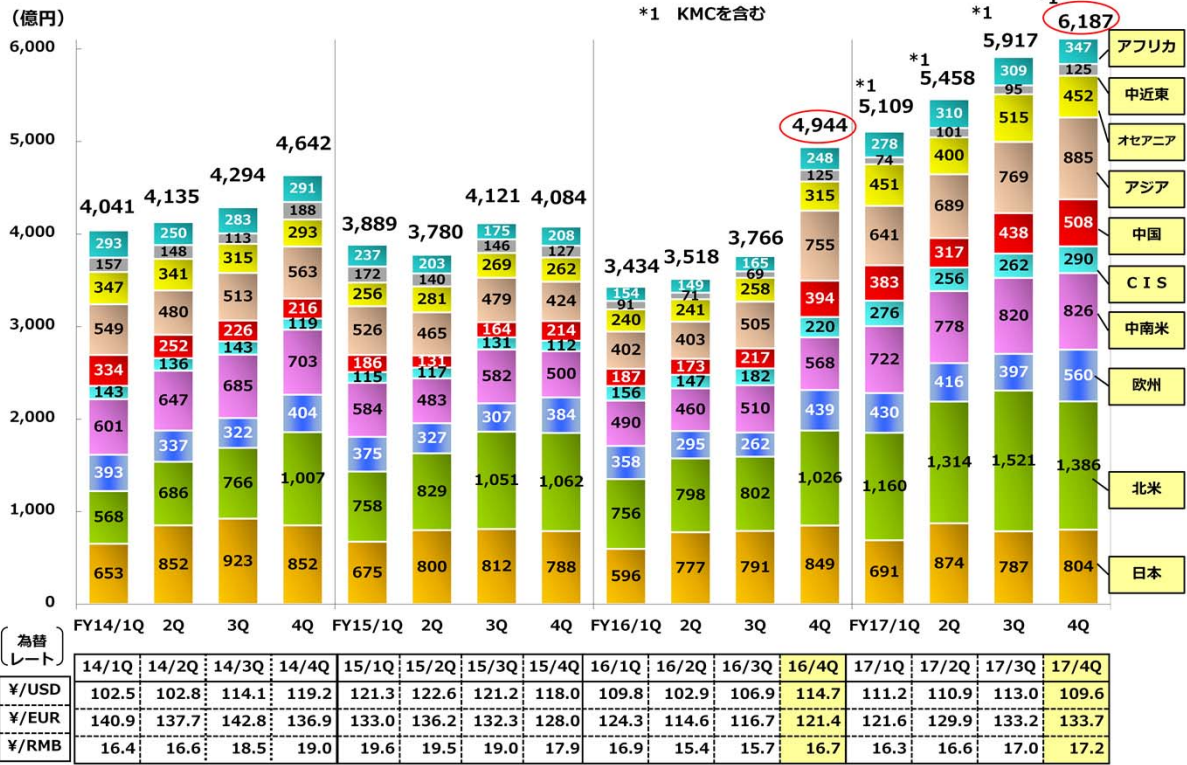


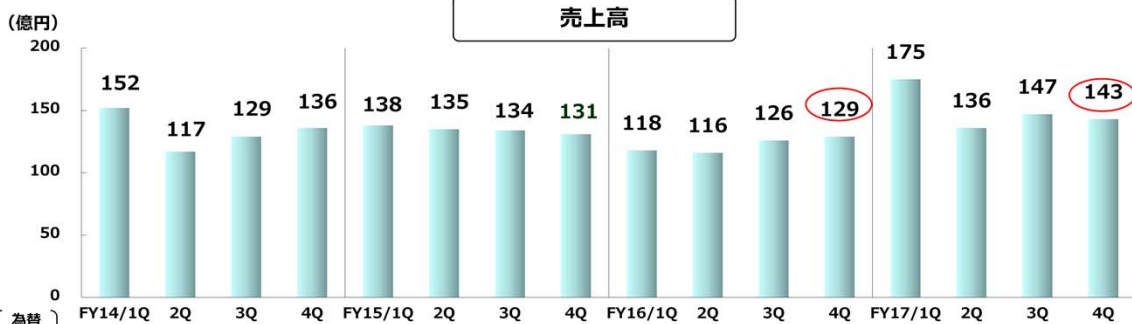
営業利益 (FY14~)



<建設機械・車両> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移

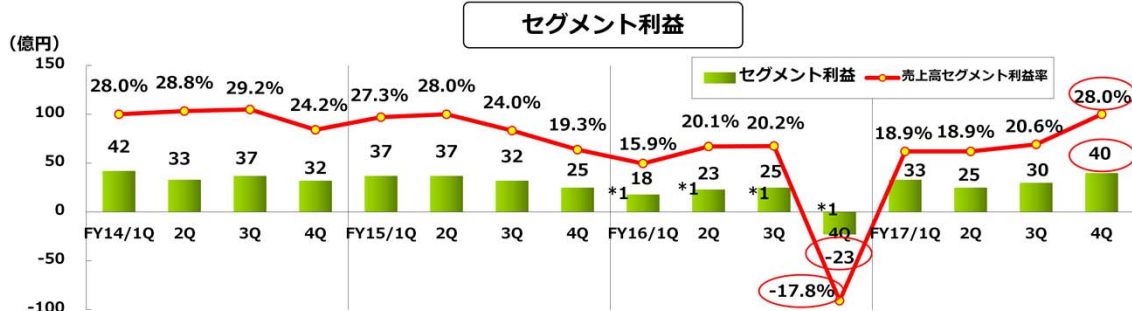




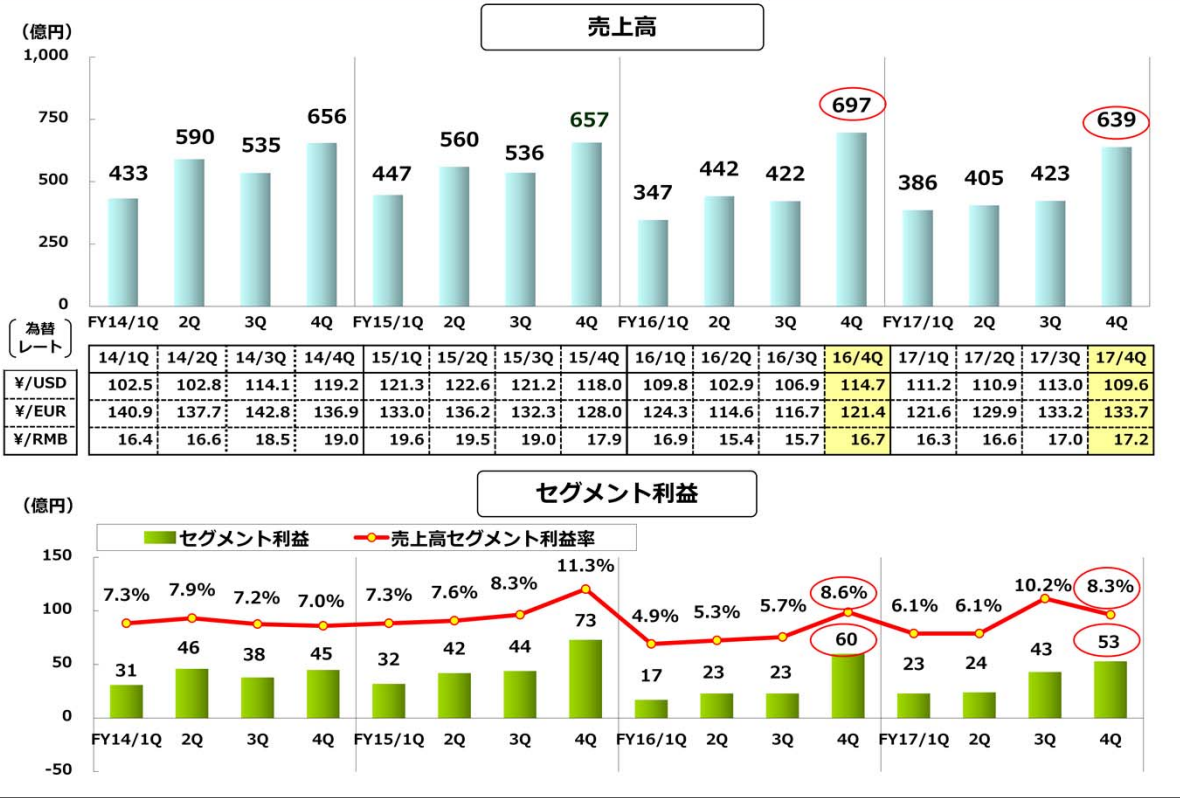


(為替レート)

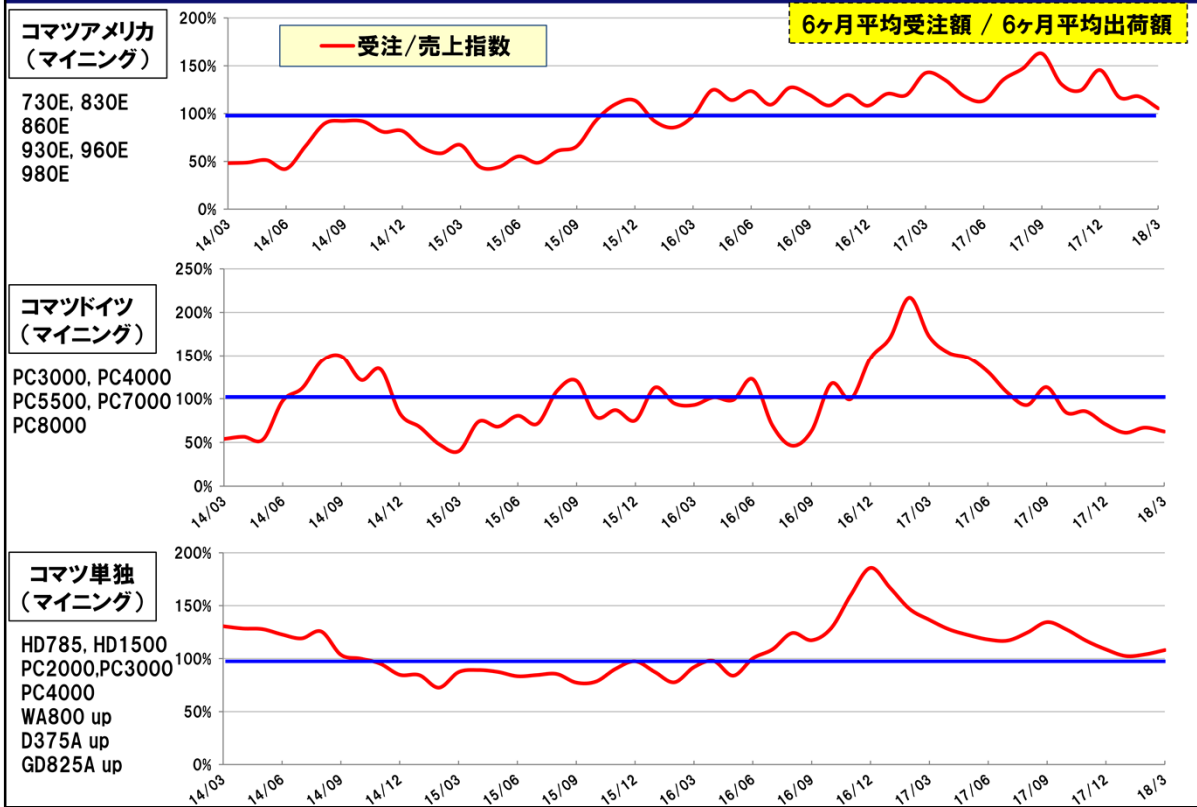
	14/1Q	14/2Q	14/3Q	14/4Q	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q	16/1Q	16/2Q	16/3Q	16/4Q	17/1Q	17/2Q	17/3Q	17/4Q
¥/USD	102.5	102.8	114.1	119.2	121.3	122.6	121.2	118.0	109.8	102.9	106.9	114.7	111.2	110.9	113.0	109.6
¥/EUR	140.9	137.7	142.8	136.9	133.0	136.2	132.3	128.0	124.3	114.6	116.7	121.4	121.6	129.9	133.2	133.7
¥/RMB	16.4	16.6	18.5	19.0	19.6	19.5	19.0	17.9	16.9	15.4	15.7	16.7	16.3	16.6	17.0	17.2



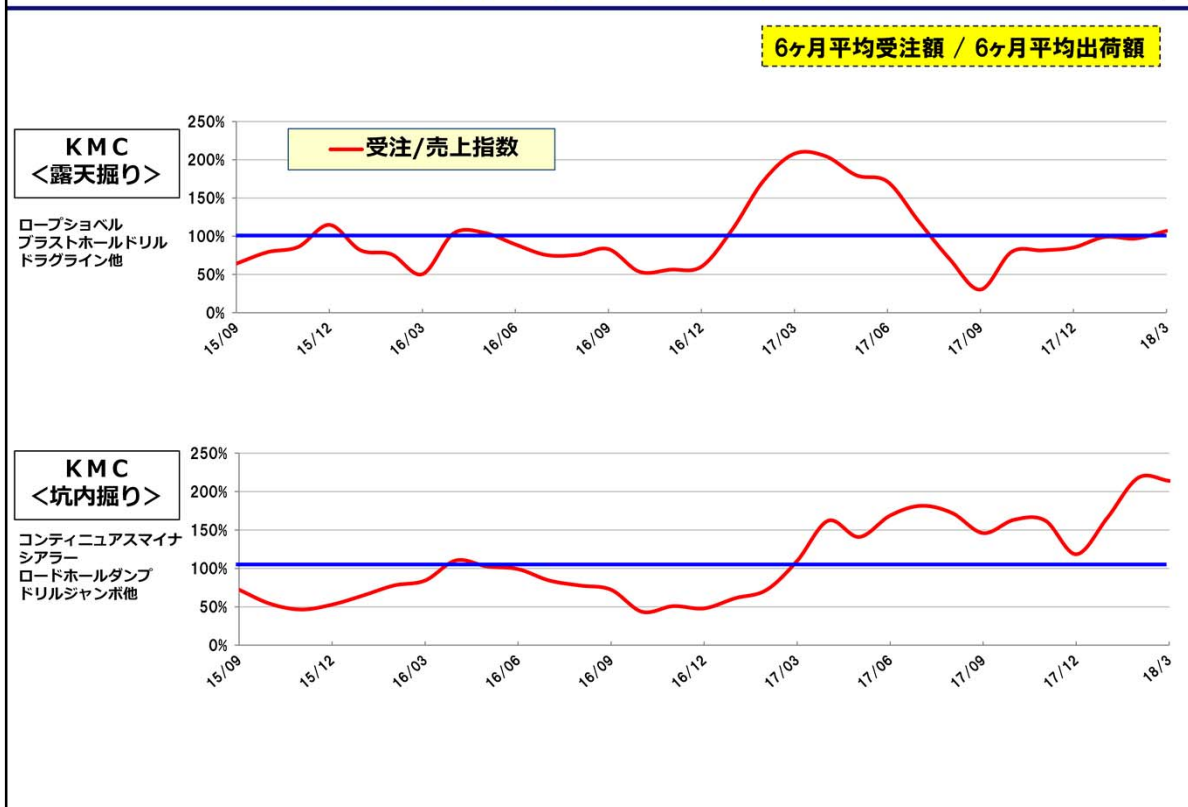
*1 中国の債権に係る引当金の計上を含む (FY16/1Q:▲10億円、2Q:▲5億円、3Q:▲2億円、4Q:▲49億円)



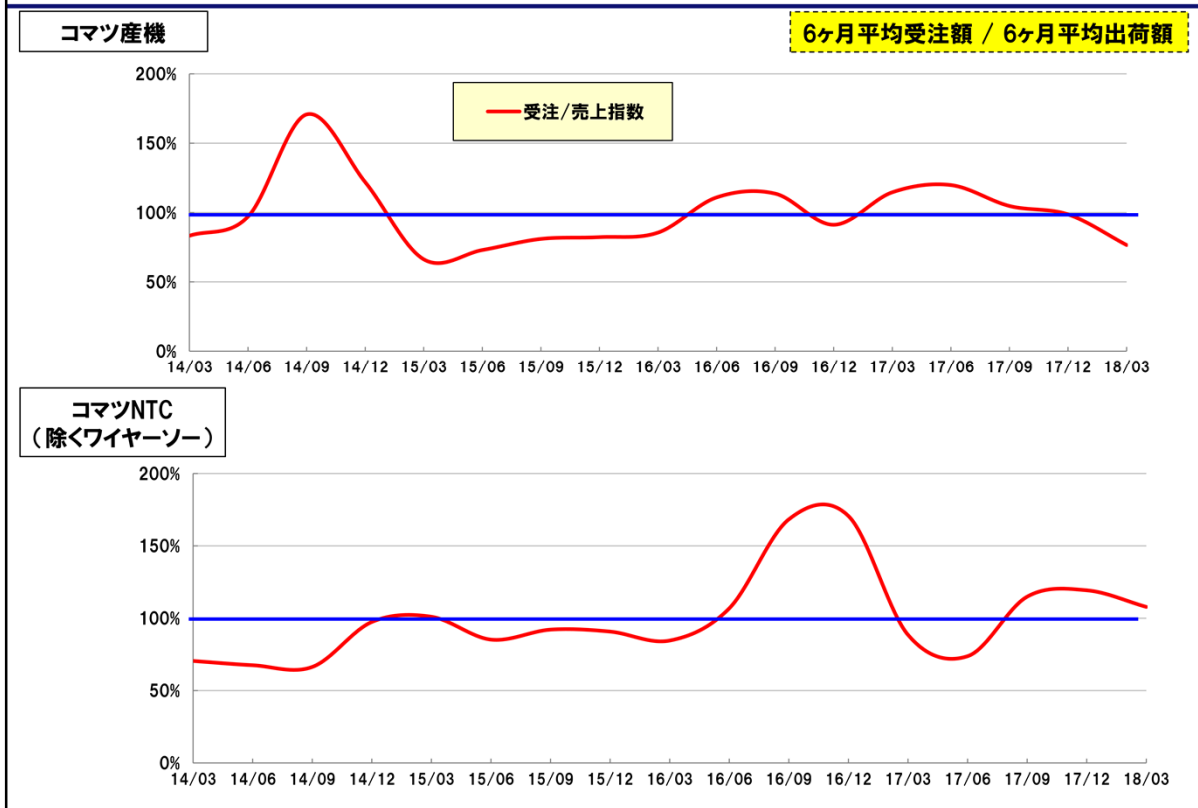
鉱山機械(本体) 受注/売上指数(6ヶ月)



- 鉱山機械本体の、受注と売上の指数の推移を示しております。
- グラフは、直近6ヶ月間の新車の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。



- KMC製の鉱山機械本体の、2015年9月以降の受注と売上の指数の推移を示しています。
- 上段がロープショベルやブラストホールドリルなどの露天掘り機械について、下段がコンティニュースマイナやシアラーなどの坑内掘り機械についての指数の推移です。



□ 産業機械の、受注と売上の指数の推移を示しています。グラフは、直近6ヶ月間の本体の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。

- ・ 連結売上高は前年同期比+20.7%増収の6,953億円。
- ・ 営業利益は前年同期比+24.3%増益の833億円。売上高営業利益率は+0.4ポイント改善し、12.0%。
- ・ 純利益は前年同期比▲8.2%減益の413億円。

金額単位：億円	2017年1-3月	2018年1-3月		前年同期比		
	¥114.7/USD ¥121.4/EUR ¥16.7/RMB	¥109.6/USD ¥133.7/EUR ¥17.2/RMB	*1 従来コマツ	KMC	増減	増減率
連結売上高	5,762	6,953	6,137	815	+1,190	+20.7%
セグメント利益	687	1,021	993	*2 27	+333	+48.5%
その他の営業収益(▲費用)	▲16	▲187	▲186	▲1	▲170	-
営業利益	670	833	807	*2 26	+163	+24.3%
売上高営業利益率	11.6%	12.0%	13.1%	3.3%	+0.4ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲38	▲69			▲30	-
税引前純利益	632	764			+132	+21.0%
純利益*3	450	413			▲37	▲8.2%

*1 KMCの影響を除いたコマツの従来ベースの業績を示している。

*2 KMCのセグメント利益(損失)および営業利益(損失)には右記の一時費用の影響が含まれている。

*3 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する当期純利益」

※ PPAはPurchase Price Allocation (パーチェス・プライス・アロケーション)の略。資産・負債を公正価値評価/配分する手続き

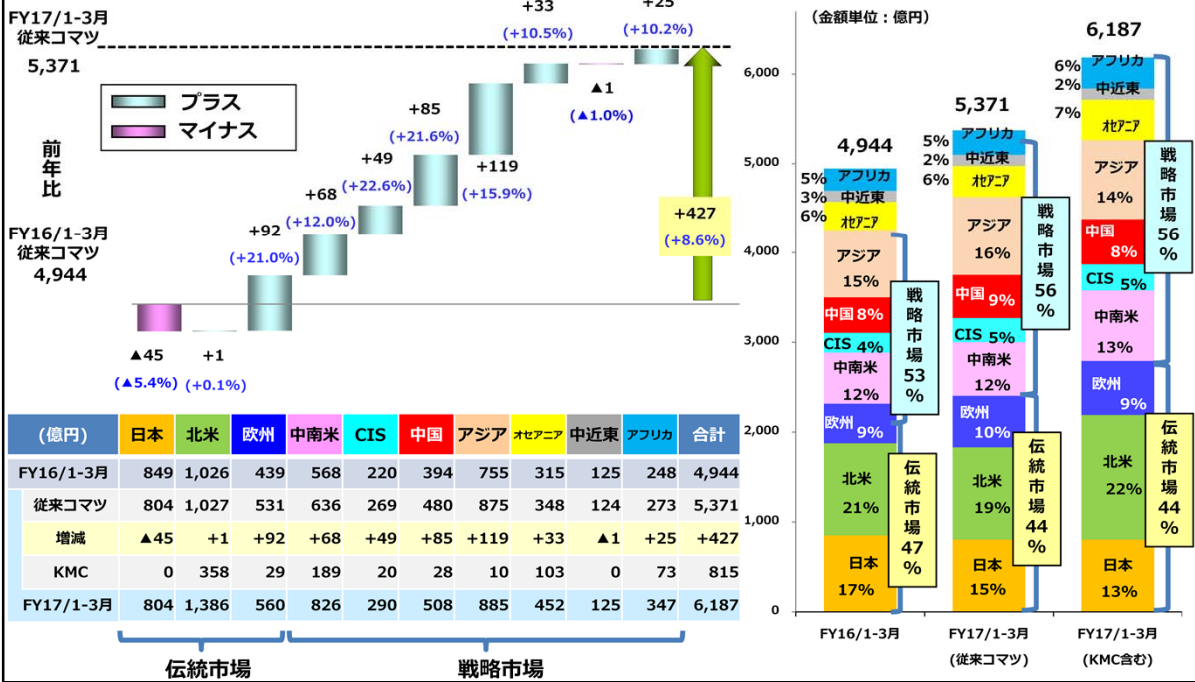
PPAによる償却費 ※	▲35億円
統合費用ほか	▲34億円
合 計	▲70億円

- ・建設機械・車両部門の売上高は+24.7%増収の6,220億円。セグメント利益は+41.3%増益の920億円。セグメント利益率も+1.7ポイント改善し、14.8%。
- ・リテールファイナンス部門の売上高は、+10.4%増収の143億円。セグメント利益は40億円。
- ・産業機械他部門の売上高は、▲8.4%減収の639億円。セグメント利益は▲11.6%減益の53億円。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位：億円	2017年1-3月		2018年1-3月		前年同期比							
			従来コマツ	KMC	増減	増減率						
売上高	5,762	6,953	6,137	815	+1,190	+20.7%						
建設機械・車両	(4,944)	4,988	(6,187)	6,220	(5,371)	5,405	(815)	815	(+1,242)	+1,231	(+25.1%)	+24.7%
リテールファイナンス	(123)	129	(128)	143	(128)	143	-	-	(+4)	+13	(+3.8%)	+10.4%
産業機械他	(694)	697	(637)	639	(637)	639	-	-	(▲57)	▲58	(▲8.2%)	▲8.4%
消去	▲53		▲49		▲49		-	-		+3		-
セグメント利益（▲損失）	11.9%	687	14.7%	1,021	16.2%	993	3.4%	27		+333		+48.5%
建設機械・車両	13.1%	651	14.8%	920	16.5%	892	3.4%	27		+268		+41.3%
リテールファイナンス	▲17.8%	▲23	28.0%	40	28.0%	40	-	-		+63		-
産業機械他	8.6%	60	8.3%	53	8.3%	53	-	-		▲6		▲11.6%
消去または全社		0		7		7	-	-		+8		-

- ・外部顧客向け売上高は前年同期比+25.1%増収の6,187億円。
- ・欧州・中国・アジアなどの地域で、売上が増加。アジアの増加の影響が大きく、戦略市場の比率が56%に増加。



4月1日、
コマツ建機販売、
コマツレンタル、
コマツリフトは、ひとつになりました。

コマツカスタマーサポート株式会社、
始動。

日本の現場に、
ダントツのサポートを。



・国内の販売会社3社（コマツ建機販売株式会社、コマツレンタル株式会社、コマツリフト株式会社）が
合併し、2018年4月1日より、コマツカスタマーサポート株式会社が発足しました。

【業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項】

前述の将来の業績予想に関する予想、計画、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は様々な要因の変化により、本資料の予想、計画、見通しとは大きく異なることがありうることをあらかじめご理解ください。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、および国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが考えられます。

コマツ 経営管理部 TEL: 03-5561-2687
FAX: 03-3582-8332
<https://home.komatsu.jp/>